

公益財団法人仙台市市民文化事業団 令和5年度事業報告書

1. 定款第4条第1号、第2号、及び第3号の事業（市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進）

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等見込・備考 (単位:千円)

(1) 芸術文化振興事業

① 市民文化事業への支援事業

1	持続可能な未来へ向けた文化芸術の環境形成助成事業	通年	—	35,334	35,334	市補助金 35,334
	未来に向けた文化芸術の新たな価値の創出や地域の文化芸術環境の発展を目的とし、地域における文化芸術の創造力や発信力を高め、まちづくりや人々の暮らしの課題解決に寄与する取り組みを支援するため、高い独自性、公益性、波及力を持つ事業に対して助成した。実施にあたっては、地域の芸術家、市民団体、民間施設等から広く公募し、文化芸術の専門家や有識者からなる外部委員会による選考を経て、採択事業を決定した。また、プロジェクト型採択事業については活動報告会を実施し、事業の成果を振り返るとともに、仙台で活動する文化芸術関係者の交流・情報交換の機会を提供した。					助成： イベント・発信型 31件 プロジェクト型 12件 参加者： 報告会 140人（オンライン参加等含む）
2	支援・助成・協力事業	通年	—	20,884	20,884	市補助金 20,884
	市内で活動する団体・個人が行う文化芸術事業に対し、公募により広報支援、資金援助、その他の各種協力を行った。 ① 支援事業 : ウェブサイトに市民企画事業の告知を掲載し、広報支援を行った。 ② 助成事業 : 仙台市の文化芸術の振興と普及啓発及び郷土の歴史継承を推進するため、市民自らが行う公演・展示・上映等の経費の一部を助成した（「公演・展示活動助成事業」）。年2回公募。 ③ 協力事業 : 特に公益性の高い事業について、入場券の販売協力、人材の紹介や派遣、事務局への参画、文化施設等での各種協力等を行った。また、良質な文化事業に対し、事業団友の会員への割引チケット斡旋等の協力を行った。					支援: 220件 助成: 164件 協力: 100件
3	名義後援	通年	—	0	0	
	団体・個人が行う文化芸術事業に対し、名義後援を行った。					125件

② 公演事業

4	宝塚歌劇雪組全国ツアー 宮城公演	9/13～14	名取市文化会館	30,293	41,664	入場料等 40,986 協賛金 350 その他 328
	東北の中核都市圏としてニーズの高い宝塚歌劇の公演を継続した。これまで親しまれてきた会場の仙台銀行ホール イズミティ21が、令和4年度から改修工事で休館中のため、年1回の公演継続のために、令和4年度に引き続き実績のある名取市文化会館を会場とし、公益財団法人名取市文化振興財団に共催の協力を得て実施した。					入場者: 5,068人
5	仙台クラシックフェスティバル2023	9/29～10/1	日立システムズホール 仙台、太白区文化センター他	70,561	66,475	市負担金 23,300 入場料 34,688 協賛金他 8,487
	当財団設立20周年記念事業として、2006年（平成18年）、クラシック音楽に親しみを持ってもらい、より多くの方々にホールで聴く生演奏の魅力をお届けることを目的に立ち上げた事業。当年度に17回目を開催した。 当年度も仙台銀行ホール イズミティ21が休館中のため、日立システムズホール仙台と太白区文化センターを会場に、3日間で68公演を実施したほか、仙台市内のより多くの地域を会場として、8月下旬～9月中旬に関連企画を開催した。また、前年度に初めて実施した、発達障害や身体的な特性等により、静かに鑑賞することが難しい人でも安心してクラシック音楽を楽しめる「せんくら・リラクス・コンサート」も引き続き実施した。 ・ホール公演は、45分と60分の公演時間、チケットは一般の公演と比較し手の届きやすい料金で、本格的なクラシック音楽を気軽に楽しんでもらった。 ・好評のコンクール入賞者と仙台フィルハーモニー管弦楽団メンバー等とのアンサンブル、仙台・宮城出身アーティストの公演等、当財団ならではの企画をより多く盛り込むとともに、仙台で音楽を学ぶ学生の演奏機会を設ける等、クラシック音楽で街の賑わいを創出する仙台ならではのフェスティバルとした。 ・無料で鑑賞できる地下鉄駅コンサートを設けることにより、仙台市内にクラシック音楽があふれ、音楽の持つ力により、たくさんの方々に元気と希望、喜びをお届けることのできるフェスティバルとした。					入場者： のべ27,900人 「せんくら・リラクス・コンサート」は8、劇場・音楽堂等機能強化推進事業に、「地下鉄駅コンサート」は⑥創造都市推進事業予算計上

6	もりのみやこのふれあいコンサート	12/7	日立システムズホール仙台	3,616	3,616	市補助金 3,616
<p>障害のある方とご家族・同行者の方等にオーケストラの演奏を楽しんでいただくとともに、芸術文化活動を振興することを目的に開催したコンサート。仙台フィルハーモニー管弦楽団による親しみやすい演奏会で、回を重ねるごとに来場希望者が増えている。仙台市立中学校の特別支援学級の生徒の招待も実施している。事前申込・無料で、仙台市及び仙台フィルと共催。当年度は、仙台銀行ホール イズミティ21の休館に伴い、日立システムズホール仙台 コンサートホールを会場に実施した。</p>						入場者:603人
7	共催事業	通年	日立システムズホール仙台他	1,078	0	
<p>放送局・文化芸術団体等が行う公益性の高い文化事業を共催し、市民に優れた文化芸術の鑑賞機会を提供した。</p> <p>当年度は、「第25回仙台青葉能」(河北新報社)、「人形浄瑠璃文楽」(東北放送)、「仙台オペラ協会第47回公演」(仙台オペラ協会)、「第60回宮城県芸術祭」(公益社団法人宮城県芸術協会)、「第7回仙台短編文学賞」(仙台短編文学賞実行委員会)のほか、「ウィーン・プレミアム・コンサート」(河北新報社)、「東京オペラシティ リサイタルシリーズB→C 庄司雄大ホルンリサイタル」(公益財団法人東京オペラシティ文化財団)を共催した。</p>						27件

③ホール運営活性化事業

それぞれのホールが、その機能を十分に発揮する各種公演等を行うこと、そしてより地域に開かれた施設となるよう、さらには新たな利用の可能性を探るために各種事業を実施した。

8	劇場・音楽堂等機能強化推進事業 (青年文化センター文化庁文化芸術振興費補助事業)	通年	日立システムズホール仙台	56,186	46,538	市負担金 37,350 入場料等 2,389 助成金 6,799
<p>仙台市の文化芸術振興の中核施設として、育成・普及・創造の3つの社会的役割を果たす日立システムズホール仙台の発信事業。国からの補助金(文化芸術振興費補助金)を財源とした助成を受け、仙台市、公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団等と共催で実施した。</p> <p><普及啓発事業></p> <p>①青少年のためのオーケストラ鑑賞会(7/6, 7, 10, 10/23~26, 11/6~8):これまでホールでのフルオーケストラ演奏会の鑑賞機会を提供してきたが、近年は新型コロナウイルスの影響で、アンサンブル形式の演奏で学校訪問コンサートを行ってきた。当年度も学校訪問型での開催となったが、市内小・中学生への教育効果を維持したプログラムの企画として授業時間で使えるような長さの動画コンテンツを制作しYouTubeにて配信を行った。</p> <p>②日立システムズホール仙台「パフォーマンスフェスティバル」(11/25~26 全館):3年目の実施。フリースペースを含め終日全館を活用した数多くの演目で構成した。シアターホールでは在仙のサックス奏者・熊谷駿によるリクエストコンサートを、コンサートホールでは、仙台ゴスペル・フェスティバル実行委員会の協力によるステージを開催した。また、市民実演者を公募したステージは継続させ、様々なジャンルのステージをお楽しみいただいた。</p> <p>③ダンスのいりぐちプログラム((1)9/18, 23, 10/8, 9, (2)3/2, 3, (3)3/24 エッグホール、練習室4) (1)「50歳からのんだんだダンサーズ」50歳以上を対象としたダンスWS。最終日には成果発表を行った。 (2)「リトルダンス」親子(子どもは0歳~8歳)を対象に絵本やリズムなどを用いたダンスWS。 (3)「実験ワークショップ~基礎編~音と音楽と身体」音や音楽と身体の関わりを探求するダンスWS。</p> <p>④仙台おどりラボ(2/17, 18 交流ホール):参加者同士の対話を促しながら、身体表現についての講義と鑑賞を織り交ぜたワークショップを実施。「からだメディア研究室」との共催。</p> <p>⑤せんくら・リラックス・コンサート(8/27 交流ホール):発達障害や身体的な特性等により、静かに鑑賞することが難しい人でも安心してクラシック音楽を楽しめるコンサートを開催した。(再掲)</p> <p><公演事業></p> <p>⑥仙台フィルと茂木大輔が贈る 名曲をとことん「味わいつくす」シリーズ ~第1回「田園」~(11/10 コンサートホール):ベートーヴェン作「田園」にちなむ様々な曲の紹介、時代背景、ヨーロッパにおける田園の意味合い等の解説とともに「田園」交響曲を全曲演奏した。</p> <p>⑦仙台フィル「コラボレーション」シリーズ オーケストラとバレエの世界(1/14 シアターホール):仙台のバレエ団体「ハイパーウインド仙台」とのコラボレーションで、オリジナルのバレエの魅力と、新たな振付による「展覧会の絵」組曲全曲を演奏した。</p> <p>⑧名曲のちから「オーケストラ・スタンダード」vol.30 ~三大交響曲の輝き~(2/23 コンサートホール):仙台フィルハーモニー管弦楽団創立50周年となる当年度から仙台フィル指揮者に就任した太田弦の指揮で、スタンダードな交響曲を解説付きで演奏。</p> <p>⑨シアターホール創造拠点事業「Atoa.創作公演」(1/28 シアターホール):シアターホールの多機能性を活かした舞台作品を創作し上演。作品には仙台を拠点に活動する和太鼓グループ「Atoa.」をはじめ、同じく仙台にゆかりのある他ジャンルの実演家も招聘し、分野を超えた実演芸術のコラボレーションを実現した。出演 Atoa.、能楽師 津村禮次郎(観世流緑泉会代表)、ダンサー 森山開次ほか。</p> <p>⑩ライブ文学館vol.20「ブラザー軒」の詩人 菅原克己の詩を歌う(3/2 シアターホール):亘理町出身の詩人、故・菅原克己をテーマに、佐久間順平による歌と音楽、在仙ピアニストの演奏と俳優による詩の朗読ほかで構成。</p>						<p>普及啓発事業</p> <p>①鑑賞者:4,426人 実施校:57校</p> <p>②来場者:3,023人 参加団体:34団体 (公演33、展示1)</p> <p>③受講者 120人 ④受講者 21人 ⑤来場者 291人</p> <p>公演事業</p> <p>来場者: ⑥465人 ⑦460人 ⑧769人 ⑨317人 ⑩188人</p> <p>人材育成事業 受講者等: ⑪受講者 13人 来場者 190人 ⑫受講者 203人</p>

	<p><人材養成事業> ⑪演劇による震災伝承事業「Voice～仙台市東部沿岸地域の伝承と物語～」(9/17～3/9 せんだい3.11メモリアル交流館、練習室4、交流ホール、宮城野区文化センターパトナシアター):仙台の東部沿岸部地域の歴史に基づく物語や伝承を、公募による調査研究チームが収集、演劇作品として上演した。 ⑫高校演劇部のためのステップアップ・ワークショップ:教育現場での演劇の次代の担い手を重点支援するため、「仙台市高等学校演劇祭」を宮城県高等学校演劇協議会と共催で開催するとともに(10/7～26)、演劇祭に向けて研修会を行った(7/15～8/9 全6日間)。加えて、ロロ主宰・三浦直之氏によるステップアップ・ワークショップ「架空の一代記をつくる」を実施した(2/23)。 <その他> ⑬青年文化センター事業評価(通年):青年文化センターの活性化に資する事業の評価を行い、事業運営を改善していくためのシステムを整えるため、外部モニターによる事業評価を行った。</p>					
9	青年文化センター活性化事業	通年	日立システムズホール仙台	1,141	121	コピー料収入 121
<p>中期経営計画をふまえ、地域資源等を活用しながら文化創造・交流拠点としての施設機能の充実と利用促進を図り、より市民に親しまれる施設を目指して様々な事業を行った。実施にあたっては他課との連携を継続し、安定的・効率的な運営を図った。</p> <p>①日立システムズホール仙台「パフォーマンスフェスティバル」(11/25～26 全館):3年目の実施。フリースペースを含め終日全館を活用した数多くの演目で構成した。シアターホールでは在仙のサクソ奏者・熊谷駿によるリクエストコンサートを、コンサートホールでは、仙台ゴスペル・フェスティバル実行委員会の協力によるステージを開催した。また、市民実演者を公募したステージは継続させ、様々なジャンルのステージをお楽しみいただいた。(再掲)</p> <p>②青年文化センター施設機能強化事業群 (1)地域連携事業(通年) 旭ヶ丘地域のコミュニティ事業「旭ヶ丘わんぱく森³(もりもり)がっこ」や近隣施設との協働による、地域に根差した施設としての役割を果たすための事業を行った。当年度の実施内容は以下の通り。 ア)フラワー大作戦(6/3、9/23):施設に彩りを添え来館者に楽しんでもらえるように、春と秋の2回、旭丘小学校の児童や保護者と一緒に花の寄せ植えを行い、正面や南側玄関前等に飾った。 イ)地域連携事業×フリースペース活用事業「七夕飾りを作ろう!」(8/3～25):旭丘小学校土曜開放図書室や地域の折り紙クラブの協力を得て、吹き流し等の七夕飾りを作成した。また、児童だけでなく会館職員や仙台フィルにも声がけて短冊を準備した。それらを仙台市科学館提供の竹に児童と一緒に飾り付けを行い、1階エントランスホールに展示した。</p> <p>(2)フリースペース活用事業(通年) エントランスホール等の共有スペースを施設の資源として有効活用し、賑わいの創出を図り施設の魅力向上につなげた。 ア)展示事業:前述の「七夕飾りを作ろう!」の他、「せんくら2022写真展」「『んだんだダンサーズ』成果発表記録写真展」「広告で振り返る日立システムズホール仙台10周年の歩み」等、事業団事業の記録や施設紹介等の展示を行った。また、仙台フィルの創立50周年記念活動に協力し、展示ブースを設けた。 イ)実演:パフォーマンスフェスティバルでは、1階エントランスホールにステージをつくり、公募出演者によるパフォーマンス等の企画を実施した。 ウ)知の場所づくり(サラダ文庫):事業団関係の書籍、雑誌等の文化情報を配架した移動ラックを1階エントランスホールに設置し、来館者に自由閲覧してもらった。令和元年度から継続実施。</p> <p>(3)諸室活用(市民参加・体験・交流)事業(通年) 諸室の活用に加え、施設所蔵品(レコード)の有効活用も図るため、以下の事業を実施した。 ア)仙台レコード喫茶「リクエスト」(11/25～26 ギャラリー):パフォーマンスフェスティバル内で実施。1980年代のレコードジャケットを展示したほか、その場でリクエストされたレコードを流すなどした。 イ)ギャラリー企画展「仙台レコード展vol.2～1980年代のレコードと仙台の喫茶店文化を歩く～」(2/23～3/3 ギャラリー):1980年代のレコードジャケットと、当時の仙台市街のタウンマップや喫茶店のマッチの展示を行い、昭和の仙台の喫茶店文化を紹介した。</p> <p>(4)ホール活用事業 ア)「日立システムズホール仙台にございん!伊達武将隊とめぐる舞台裏(バックステージ)ツアー」(8/18 シアターホール):小学4～6年生とその保護者を対象に、舞台の裏側やホール機能を体感できる見学会を実施した。伊達武将隊による演武を題材に、機材・舞台装置等の解説やバックステージの見学、照明・音響操作体験などを盛り込んだ。 イ)新規事業に向けた視察・調査:ホールを活用した新規事業実施に向けての視察・調査を行った。</p> <p>(5)共通経費(通年) ③コピーサービス事業(通年) 施設利用者向けのサービスを継続して実施した。</p>						<p>①は8.劇場・音楽堂等機能強化推進事業に予算計上 ③は収益事業</p> <p>入場者等: ①3,203人(再掲) ② (1) ア)6/3 23人 9/23 18人 イ)七夕飾り・短冊作り 約100人 飾りつけ 9人 (3) ア)入場者数は①に含む イ)2,773人 (4) ア)31人</p>

10	泉文化創造センター活性化事業	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	947	300	協賛金 300
<p>大規模改修のため施設は休館中であったが、芸術鑑賞の機会を提供するため、泉エリアを中心としたアウトリーチ公演等を開催した。また、リニューアルする施設を市民に紹介する企画や、ボランティアによるピアノ弾き込みを実施し再開館の準備を行った。</p> <p>①泉エリアを中心としたアウトリーチ:これまで大ホールホワイエを会場に開催してきた企画を泉エリアを中心とした学校、市民センター等で実施した。施設休館のため芸術鑑賞機会が減少する同エリアの子どもたちを主な対象とした。出演は泉区出身のチェロ奏者吉岡知広、ピアニストの榎本未来、八巻梓(10/22のみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台市立根白石小学校体育館(9/25) ・南中山市民センター体育館(10/7) ・仙台市立桂小学校体育館(10/16) ・泉区中央市民センター第1会議室(10/22) ・仙台市立向陽台小学校体育館(11/13) ・仙台銀行本店ビル9階講堂(11/27 ※行員向けコンサート含む) <p>②リニューアル開館にむけたプレ企画(2/21 大ホール):4月の再開館にさきがけて、地域の小学生(仙台市立七北田小学校全校児童)を招待し、改修されたホールのお披露目コンサートを行った。出演は仙台市消防音楽隊。また、演奏をお楽しみいただくほか、消防音楽隊ならではの防災啓発のおはなしや、地震発生を想定したシェイクアウト訓練も合わせて行った。</p> <p>③ピアノ弾き込みボランティア運営(2/22～3/11):休館中のため使用されなかった大・小ホールに設置されているピアノ(5台)の弾き込みを地元ピアニストの協力を得て実施した。</p> <p>④プレイガイド事業(通年):主催・共催事業のチケット販売を臨時事務所及び令和6年2月以降は施設窓口にて行った。再開館後に施設利用者が主催する公演チケットの販売受託も再開した。</p>						
<p>入場者: ①552人 ②570人</p> <p>参加ピアニスト: ③12人</p>						
④ミュージアム活性化事業						
ミュージアムの新たな魅力や個性づくりに向けた各種体験型事業やグッズ製作等を行い、来館者の増加や満足度の向上を図った。						
11	猿舞座のさるまわし	中止	榴岡公園 歴史民俗資料館	0	0	
榴岡公園を会場として、山口県岩国市に拠点を置き全国を旅しながら猿まわし興行を行う猿舞座の13回目の公演を3年ぶりに実施することを模索したが、興行元の事情により中止した。						
12	れきみん秋祭り2023	10/28、11/3	榴岡公園 歴史民俗資料館	3,448	1,001	助成金 1,000 刊行物販売 1
東北地方に伝わる伝統芸能や職人の技術といった「無形」の民俗文化、芸術文化を榴岡公園と歴史民俗資料館の館内を会場として紹介した。						
来場者:3,836人						
13	歴史的生活体験教室	通年	富沢遺跡保存館他	186	70	古代米販売 70
館の敷地や隣接地を利用して、米づくり等富沢地区周辺で行われてきた昔の生活要素を体験・研究する事業。当年度は水稻栽培だけではなく陸稲栽培も実験的に行い、富沢地区での稲作の可能性を探ることを目的とした。作業は当館ボランティアスタッフ・地底の森サポーターと協働して行った。						
14	地域交流促進事業	11/23、1/27	富沢遺跡保存館	212	0	
これまで参加者から好評を頂いた閉館時間帯の施設・野外展示利用等、指定管理業務では実施が困難な内容を自主財源事業として実施する事業。当年度は、館の森(地下展示・野外展示)の価値の共有や保全への共感を得ることを目的に、「長町学びネット」とともに体験型イベント(①11/23)および「仙台三桜高校音楽部」のコンサートを中心に据えたイベント(②1/27)を実施した。地域の方々が参加しやすく、かつ地域の人材と組織を活かしたイベントとなるよう企画したことで、地域活性化に寄与することができた。						
参加者: ①41人 ②65人						
15	歴史・芸術融合事業 「ミュージアム・シアター“狩人登場!”	通年	富沢遺跡保存館他	1,587	0	
市内を中心に演劇等の表現活動をする「劇団 短距離男道ミサイル」の協力を得て、旧石器時代の狩人が登場するイベントを行った。ミュージアム・シアターの手法を導入することによって、考古学の知識や知的興奮に加え、当館の非日常的な空間を生かした特別な体験を提供することができた。これまでの活動に加え、学校利用向けや演劇要素の強い演出も試み、事業の可能性を広げることができた。狩人の演じ方や衣装に関しては、実験考古学的手法も用い、旧石器時代の生活について考察を深めるための調査研究や演出等の検討を行う場も設けた。						
実施回数:20回						
16	映像・記録発信事業「地底の森アーカイブス」	通年	富沢遺跡保存館	310	0	
動画配信の需要が高まっていることから、映像ならではの手法を用いて、野外展示「氷河期の森」等の展示や各種事業の記録・発信を行った。また、動画作品を広報するための動画の作成、360° VR動画の視聴体験イベント(①8/26、②2/10)等を行い、これまでに蓄積した写真や動画の周知に努めた。						
参加者: ①50人 ②37人						

17	学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」	通年	縄文の森広場	80	0	
近隣学校や地域との結びつきを深め、より地域に根差した施設になることを目的とした事業。平成28年度から継続。当年度は土器片そっくりのクッキーづくりや土器型チョコレートづくりなど、楽しみながら縄文文化に触れられるイベントを地域の施設や学校と連携して行った。						参加者: 親子6組12人
18	展示手法の開発・導入	通年	縄文の森広場	1,747	200	助成金 200
新たな展示手法の開発と導入を図るための事業として令和2年度から開始した、「リビングヒストリー」と「3次元計測」を柱とした事業。当年度は、国際交流の促進と国際活動の市民への還元を目的としたワークショップ、文化財の保存や活用に対する日韓の違いを主な議題としたシンポジウムを行った。また、平成28年度から関係を深めてきた大韓民国全谷先史博物館と国際文化交流協約書を令和6年3月13日に締結した。 ①秋まつりでのワークショップ(10/14) ②国際ミニシンポジウム パブリック・アーケオロジーって何?(10/15):岡村勝行(東淀川調査事務所 所長)、イ・ファジョン(韓国 漢陽大学博物館研究教授)、佐藤祐輔(仙台市縄文の森広場 所長)						参加者: ①330人 ②41人
19	コミュニティ・アーカイブ・ラボラトリー	通年	メディアテーク	1,284	0	
市民による草の根的なアーカイブ活動を示す「コミュニティ・アーカイブ」の理念・実践の普及啓発を進めるための事業を実施した。 ①国内のコミュニティ・アーカイブの事例を調査し、ウェブサイトで発表するほか、アーカイブにまつわる権利処理等について、専門家とともに検討した。 ②民話探訪者、小野和子氏宅内の資料を確認、リスト化した。 ③特別講演「体験を言葉にすることー『戦争語彙集』を読む」の実施(1/21):著者のオスタップ・スリヴィンスキー(詩人)をウクライナから招聘、訳者のロバート・キャンベル(日本文学研究者)、館長の鷲田清一(哲学者)と鼎談した。戦時下における市民の言葉は、仙台市中心部メモリアル拠点の計画における趣旨「災害文化」を体現する機会ともなった。						参加者: ③335人
20	smtホスピタリティ向上事業	通年	メディアテーク	0	0	
施設活用の新たな手法とツールの開発、実践として、次世代や親子層の日常的な利用における課題についての調査や、定禅寺通活性化に寄与する取り組みを行った。						
21	ミュージアムグッズ開発・販売事業	通年	各ミュージアム他	929	835	刊行物販売 835
ミュージアム来館者への記念品として、かつ普及の手法として、ブランドの向上や収入確保も目指し、施設の特長や資源を生かしたオリジナルグッズの開発を行った。 ①歴史民俗資料館グッズ:昭和22年復興新仙台地図、昭和27年仙台地図、仙台の商店記載地図(大正14年、昭和4年、昭和8年)、大正15年仙台地図、明治13年宮城県仙台全図、明治17年仙台市街絵入明細全図、仙台城下絵図、昭和26年map of Sendaiの継続販売と、新規復刻地図「(昭和3年)地番入最新仙台市地図」の制作販売。(支出701千円、収入343千円) ②富沢遺跡保存館グッズ:氷河期の森で採集できる実や枝で、来館の思い出となるグッズを製作し販売した。また、ボランティア会が製作した編布シリーズ・リースの販売を継続した。(支出62千円、収入48千円) ③縄文の森広場グッズ:縄文の森広場ボランティアスタッフによるオリジナルグッズの製作と販売。一部は、家庭で出来る縄文体験の役割も担った。(支出10千円、収入46千円) ④仙台文学館グッズ:前年度までに制作し来館の記念等として人気の高いしおり・クリアフィル等を継続販売し、特別展に関連したグッズを制作し来館者のニーズに応えた。(支出110千円、収入212千円) ⑤メディアテークグッズ:ミュージアムショップ等と共同開発してきたオリジナルグッズを継続販売した。(支出46千円、収入186千円)						収益事業
⑤劇都仙台2023事業						
都市文化を支える芸術としての演劇の総合性と公益性を背景に、仙台市と共催のもと、各種振興事業を以下①～⑤の体系に基づき実施した。 ①良質な公演の機会の拡大 ②表現者の発掘・育成 ③活動を始める市民への窓口やネットワークの支援 ④教育や福祉等、他ジャンルとの連携 ⑤情報交流や協働						
22	仙臺能	11/23	日立システムズホール仙台	3,970	3,970	市負担金 1,927 入場料 2,043
能と狂言を気軽に鑑賞できる本格的なホール公演として、広く市民に能楽の魅力を伝えるため継続実施してきた「市民能楽講座」から名称変更。観世流の浅見重好(シテ)他による能楽公演をシアターホールにて、仙台市と仙台市能楽振興協会との共催により実施した。						入場者:396人

23	舞台スタッフ・ラボ	通年	演劇工房10-BOX他	1,449	1,449	市補助金 738 受講料 61 助成金他 650
	<p>①オープン講座「仕込見学会」(1/18): 普段は見ることができない公演の仕込みを特別に公開し、搬入から設営、照明作業他、解説付きで舞台が出来上がるまでを見学した。</p> <p>②本講座: 舞台監督、照明、音響の基礎を学ぶ基礎コース(2/3～9)と、演劇公演で実際にスタッフワークを体験する発展コース(2/11～17)を実施した。</p> <p>③舞台スタッフ・ラボ×みやぶん演劇学校合同公演(発展コース本番・模擬公演)(2/18 2回公演): 宮城野区文化センターとの共催により、「みやぶんおはなし広場『森のたからもの～新美南吉 童話集より～』」(脚本・演出: 渡部三妙子)を実施した。</p>					<p>参加者等:</p> <p>①参加者 13人 ②受講者 18人 ③受講者 8人 出演者 10人 入場者 188人</p>
24	10-BOX鑑賞プログラム	通年	演劇工房10-BOX他	3,278	1,664	市補助金 1,664
	<p>①仙台・劇のまちトライアルシアター「子育てあるある劇場」(6/21～10/31・9日間): 令和4年度から引き続き、仙台市内の児童館・のびすくと連携し、これまで取り組んできた子育て世代による創作の結果を活用した、「子育てあるある劇場」を各館に出張公演の形で行うとともに、ホール公演も実施した(全9回)。また、10-BOXのYouTubeチャンネルを活用し動画の制作を行った。</p> <p>②共催公演: 良質な演劇鑑賞の機会を提供し、観客層の拡大につなげる。さらに、県外の劇団と在仙の演劇関係者との交流の場を創出し、在仙劇団の活動の幅を広げた。「とうほく学生演劇演劇祭2023」(9/1～4)、OrgofA「第7回せんだい短編戯曲賞 大賞受賞作「異邦人の庭」仙台公演」(9/23～24)、Team HacC Lose「せんだい短編戯曲東西ツアー」(9/23～24 作並小学校新川分校跡施設、3/16～17 海岸公園センターハウス)</p> <p>③10-BOX広報事業: 10-BOXを拠点として、仙台圏の演劇情報を集めインターネットや紙媒体等により広く市民に発信し活動の推進に努めた。</p>					<p>入場者:</p> <p>①166人 ②368人</p>
25	10-BOX開館20周年記念事業	5月・10月	演劇工房10-BOX他	5,205	349	入場料349
	<p>令和4年度の10-BOX再整備工事により実施を延期していた開館20周年事業を行った。令和5年3月末の新棟完成後に利用再開となる10-BOXの新たな建物・機能について広く紹介する「内覧会」を行うとともに、10月には20周年を記念して多くの人々と祝い連携する祝祭事業を行った。</p> <p>①10-BOXリニューアルオープン内覧会とセレモニー(5/13～17): 主に利用者に向けた新設棟の内覧会を行うとともに、施設紹介として閲覧できるウェブページを制作し施設のオープンを広く市民に広報した。</p> <p>②フェスティバル: 施設リニューアルと20周年の記念事業として以下の公演を行った。</p> <p>(1)せんだい演劇工房10-BOX20+1周年事業「THE DRAFT」(10/21～22) 「命を弄ぶ男ふたり」(作: 岸田國士)、「あたしのこと」(作: 工藤舞)、「かいだん」(作: 文月奈緒子)、「死体のある風景」(作: 別役実)、「ミソジニー!」(作: サカモトエリ)</p> <p>(2)兵庫県立ピッコロ劇団お出かけステージ「タラレバ幽霊とタカラの山」(10/28)</p>					<p>来場者:</p> <p>①56人 ②(1)136人 (2)77人</p>
26	演劇と表現の講座	11～3月	演劇工房10-BOX他	759	759	市補助金 733 受講料 26
	<p>これまでの人材育成型プログラムで蓄積してきた手法をベースとし、中高生をはじめとする若者や、これまで演劇と関わりのなかった方が演劇に親しめる、短編戯曲を書くためのゼミ「短編戯曲を書くための小さなゼミ～屋根裏ハイツの「シナリオ教室」ごっこ」を実施し、最終日には俳優の朗読による戯曲発表会を行った。講師: 中村大地、渡邊時生(屋根裏ハイツ)</p>					<p>参加者: 9人 来場者: 23人</p>
27	せんだい短編戯曲賞	通年	演劇工房10-BOX他	1,474	1,474	市補助金 1,474
	<p>平成24年度から実施している「短編戯曲」を対象とする戯曲賞。全国公募により次代の演劇を担う人材を発掘し、冊子発行によって若い作家の作品上演の機会を増やす。平成30年度から作品上演と作品募集をそれぞれ隔年での実施とし、当年度は第8回大賞作品の授賞式およびリーディング公演(「黄色の森」作: 河合穂高、演出: くまがいみさき)を行った(7/1～2)。また、第9回の作品募集を行った。</p>					<p>来場者125人</p>
28	能-BOX事業	通年	能-BOX	899	811	市補助金 611 受講料 200
	<p>能楽施設「能-BOX」を活用し、能楽をはじめ伝統的な日本文化への親しみと理解を深めるため、以下の事業を実施した。</p> <p>①こどものための能講座(7/21～8/11): 講師 能楽師 山中迺晶</p> <p>②能のおけいこ体験講座(10月～2月): 仙台市能楽振興協会との共催。「喜多流「田村」の謡と仕舞」、「喜多流「猩々」の謡と仕舞」、「宝生流「鶉飼」の謡と仕舞」、各講座をそれぞれ6回連続で開催した。</p> <p>③能-BOXゼミナール「今をつらぬく古典の光」(9～11月 全5回): 聞き手 小塩さとみ、お話し 山中迺晶、梅原久史、すずき佳子、深澤昌夫、國見昌史、津村禮次郎、</p> <p>④卸町ふれあい市「響・演★能-BOX」(4/15、10/14～15): 協同組合仙台卸商センターとの協働。打藝衆傀、林宏樹&Henrik Hansson、Deli-Jazz(名雪祥代、江浪純子)によるコンサートを実施した。</p>					<p>受講者:</p> <p>①24人 ②37人 ③163人 来場者: ④655人</p>

29	地域連携による演劇振興事業	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
	<p>①高校演劇部のためのステップアップ・ワークショップ:教育現場での演劇の次代の担い手を重点支援するため、「仙台市高等学校演劇祭」を宮城県高等学校演劇協議会と共催で開催するとともに(10/7～26)、演劇祭に向けて研修会を行った(7/15～8/9 全6日間)。加えて、ロロ主宰・三浦直之氏によるステップアップ・ワークショップ「架空の一代記をつくる」を実施した(2/23)。(再掲)</p> <p>②機材貸出等による舞台芸術活動サポート:近隣小学校の学習発表会や地域の市民活動に音響・照明等の機材貸出や運営アドバイス等、舞台芸術活動の支援を行った。</p> <p>③協力・協働事業:IMS声とことばの磯貝メソッド仙台塾の音声学ワークショップ「声とことばを学ぶ」や、インディペンデントシアターによる「最強の一人芝居フェス INDEPENDENT」仙台公演等への事業協力を行った。また、宮城野高等学校「未来構想ゼミナール表現芸術系(舞台芸術系統)」について、助言や講師の紹介等の協力を行った。</p>					<p>①は8.劇場・音楽堂等機能強化推進事業に予算計上</p> <p>①参加者:203人</p>
30	共通事務	通年	演劇工房10-BOX他	571	97	刊行物販売 97
	ホームページの更新や発送、せんだい短編戯曲賞の冊子印刷・販売、次年度の事業に向けた視察や調査研究等、事業間連携活動に必要な業務を行った。					
⑥創造都市推進事業						
仙台市との共催事業。市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、魅力と活気あふれる都市づくりを推進した。						
31	地下鉄駅コンサート	9/23,24、 9/30、10/1	地下鉄駅構内	1,083	1,083	市負担金 1,083
	仙台クラシックフェスティバル関連事業として、市内及び周辺地域を活動拠点にしている団体等が出演する無料コンサートを、地下鉄仙台駅・旭ヶ丘駅構内で開催した。					来場者:4,838人 参加者:30組110名
⑦土井晩翠顕彰事業						
32	土井晩翠顕彰事業	通年	—	804	804	市負担金 748 刊行物販売 56
	平成29年度末をもって解散した土井晩翠顕彰会の事業を引き継ぎ、詩人・土井晩翠の業績と遺徳を顕彰する事業を行った。晩翠わかば賞・あおば賞の募集と賞の贈呈をし、記念事業として、詩のイベント「朗読と音楽のひととき 没後80年 島崎藤村を読む」を実施した(10/29)。晩翠草堂の展示品の管理と展示内容の充実に努めた。					
⑧育成・普及事業						
子どもたちが芸術文化に触れる機会を広く提供するとともに、アーティスト及び指導者の育成を図った。						
33	芸術家派遣事業	9月～2月	各学校・地域	0	0	
	「仙台市文化芸術による子供の育成事業実行委員会」が文化庁から業務受託し、小学校・中学校・高校(特別支援学校含む)で子どもたちに文化活動や鑑賞の機会を提供した。当事業団は実行委員会事務局として、文化庁との調整、実務統括、会計等を行った。受託費は750万円。					実施校: 53校
34	東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト	12/9、10、2/4	日立システムズホール仙台	277	0	
	仙台及び東北地域における音楽教育の振興のため、東京藝大、仙台市、仙台市市民文化事業団の共催により、平成27年より継続開催している。当年度は①ピアノ部門(12/9)、②ヴァイオリン部門(12/10)、③木管楽器+ホルン部門(2/4)の計3部門を実施した。日本最高レベルの音楽教育に触れることで、地域で音楽に取り組む子どもたちのモチベーション及び技術の向上、地域で音楽教育に取り組む指導者の指導力向上、音楽教育・演奏技術への市民の理解を深める催しとなった。					<p>受講者:</p> <p>①応募9人、受講5人 ②応募7人、受講5人 ③応募11人、受講10人</p> <p>聴講者:</p> <p>①60人 ②40人 ③57人</p>

⑨出版事業						
事業団の事業成果を出版。仙台発の編集文化の発信にも寄与した。						
35	出版物の販売継続事業	通年	—	3	46	刊行物販売 46
<p>①仙台文学館刊行物販売事業：『仙台本のはなし24人でつくりました』『仙台で夏目漱石を読む』『瀬戸内寂聴 生きることは愛すること』『ユキユキドンドン スズキヘキ詩集』等、仙台文学館ゼミナールの成果品や講義録、また仙台文学館選書として出版したものを、継続して販売した。(支出0、収入26)</p> <p>②『仙台戯曲賞シリーズ』販売事業：『仙台戯曲賞シリーズ』01～04を窓口販売のほか、ウェブサイトからの申込みにより継続販売した。販売価格は1,000円(税別)。(支出1、収入1)</p> <p>③『文化芸術の社会再生力』販売事業：事業団設立20周年記念事業として実施した連続シンポジウム「文化芸術は成熟社会の再生力。」における鼎談と講演録を採録したブックレットを継続販売した。(支出1、収入2)</p> <p>④『RE:プロジェクト記録集』販売事業：平成23年度から27年度まで実施した事業「RE:プロジェクト」の成果物(『RE:プロジェクト通信』『5年目のRE:プロジェクト通信』)に活動の記録や振り返りを加えて1冊にまとめた本を継続販売した。(支出1、収入17)</p>						
⑩広報事業等						
36	広報事業	通年	—	4,162	4,162	市補助金 4,162
仙台における文化芸術領域の動向や、地域で活動する人々を広く市民に広報・紹介するウェブメディア「まちりょく」を運営した。併せて、「市民ぶんかレター」や市民文化事業団ウェブサイトをはじめ、X(旧Twitter)等のSNSも活用しながら、当財団の主催事業や活動、運営施設の情報等の発信を行った。						
37	市民文化事業団友の会運営	通年	—	2,357	1,705	友の会会費 1,705
市民の芸術・文化鑑賞機会の維持拡大を図るため、友の会組織の運営を継続した。市民文化事業団通信「市民ぶんかレター」による当財団事業の広報、主催・協力事業における先行及び優待サービスの提供等を行った。また、令和6年度に向けて制度リニューアルを行った。						
38	事業団事業全体にかかる共通事務等	通年	—	5,827	0	
<p>①共通事務：事業全体の調整、新事業の調査・企画、チケット販売業務等を行った。また各種法令改正への対応や顧客サービス向上のため、電子帳簿保存・電子決裁システム、チケット販売・会員管理システムの導入を行った。</p> <p>②人材育成事業：財団職員全体の資質向上を目的とした各種研修を実施するほか、個々の職員や施設の専門性に応じた技術・能力や意欲向上を目的とした研修・勉強会等の実施支援を行った。</p>						

(2)コンクール運営事業

①仙台国際音楽コンクール事業						
令和7年に開催する第9回仙台国際音楽コンクールの準備を進めた。						
39	事務局運営	通年	日立システムズホール仙台	5,108	5,108	市負担金 5,108
コンクール事務局の運営を行った。						
40	委員会運営	通年	日立システムズホール仙台他	1,173	1,173	市負担金 1,173
組織委員会(3/21)、運営委員会(7/20、11/28、2/1)、企画推進委員会(6/30、2/15)を開催した。						
41	コンクール事業	通年	日立システムズホール仙台	1,497	1,497	市負担金 1,480 刊行物販売 17
第9回コンクールの審査委員及び実施要項を確定した。						
42	広報事業	通年	日立システムズホール仙台	11,771	11,771	市負担金 11,771
2/1に東京都内で第9回コンクール開催発表記者会見を実施した。第9回コンクール出場者募集に係る広報活動、印刷物作成等を行った。公式ホームページやSNS、プレスリリース等により、コンクール及び関連事業の広報活動を行った。						

43	ボランティア事業	通年	日立システムズホール仙台	1,378	1,378	市負担金 1,378
<p>第9回コンクールに係るボランティア活動の事務局業務を行った。</p> <p>①ボランティアリーダーミーティングの開催 ②会場運営サポート:コンクール関連事業等の会場運営 ③広報宣伝サポート:ボランティアニュース「コンチェルト」発行、ボランティアブログ運営 ④出場者サポート:第9回コンクール中の活動の企画・運営に関するミーティングの開催 ⑤ホームステイ受入れ:活動に関する意見交換会 ⑥ボランティア新規募集開始 ⑦ボランティアプロジェクトチーム:ホン・ソラン(第8回コンクールヴァイオリン部門第4位)によるコンサートの企画運営(8/2)</p>						<p>ボランティア登録: 233人</p> <p>⑦入場者:260人</p>
44	第8回仙台国際音楽コンクール 優勝者副賞コンサート	通年	日立システムズホール 仙台、東京都内他 国内 各地	13,486	12,409	市負担金 3,745 入場料等 6,664 助成金 2,000
<p>第8回コンクール優勝者の副賞として、日本国内でのリサイタルを4回開催し、CDの制作と音楽配信を行った。また、国内オーケストラとの出演機会の提供や優勝者同士によるデュオリサイタルの開催などを実施した。</p>						<p>リサイタル入場者: のべ1,301人</p>
45	仙台国際音楽コンクール関連事業	通年	仙台市内各所	9,322	3,583	市負担金 2,864 入場料等 719
<p>①仙台の音楽文化振興を目的に、第8回コンクール入賞者と仙台市内のアマチュアオーケストラが共演する機会を設けた。</p> <p>(1)ホン・ソラン(ヴァイオリン部門第4位)出演/宮城教育大学交響楽団定期演奏会(8/6) (2)ジョンファン・キム(ピアノ部門第4位)出演/仙台ニューフィルハーモニー管弦楽団定期演奏会(11/3) ②第8回コンクール入賞者による小・中学校訪問コンサートを実施した(5校)。 ③仙台ゆかりの若い音楽家の活動支援とクラシック音楽鑑賞の普及等を目的に、街かどコンサートを開催した(2/10昼の部、夜の部)。 ④第9回コンクールのPRを目的としたコンサートを企画、実施した。</p> <p>(1)野島稔メモリアル もっと教えて野平 一郎先生事前レクチャー(1/21) (2)野島稔メモリアル もっと教えて野平 一郎先生～鍵盤楽器の歴史と魅力～(3/30)</p>						<p>入場者: ①(1)373人 (2)951人 ③昼の部 270人 夜の部 190人 ④(1)82人 (2)344人</p>

(3)ジュニアオーケストラ運営事業

46	仙台ジュニアオーケストラ運営	通年	日立システムズホール仙台他	22,544	22,544	市負担金 14,769 受講料等 7,775
<p>・仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管した。</p> <p>・通年の練習等の指導は、仙台フィルハーモニー管弦楽団に委託した。</p> <p>①8/7～8/9に岩手県で夏期合宿を実施した。 ②10/15に「第30回定期演奏会」を開催した。 ③3/24に「2024スプリングコンサート」を開催した。</p>						<p>団員:103人(3/31時点・在団生85人、卒団生17人) 演奏会入場者: ②663人 ③681人</p>

(4)演劇系練習施設運営事業

47	せんだい演劇工房10-BOX運営	通年	演劇工房10-BOX 能-BOX	28,666	28,666	市補助金 23,405 使用料等 5,261
<p>「試しながらじっくり演劇を作る空間」をコンセプトに、独自のスペース・設備等を弾力的な利用システムにより貸出し、仙台における演劇及びその周辺の表現活動を直接的に支援した。加えて、「劇都仙台」各事業との一体的な運営によって、市民の文化芸術活動を支えた。また、民間より寄贈を受けた能舞台を仙台卸商センターの倉庫に移築した、別館「能-BOX」の運営を行った。</p> <p>当年度は再整備工事を終えてのリニューアルオープン之年となった。新設棟のbox-5、box-6等の貸し出しを開始した。また、休館日の設定など令和6年度からの利用ルールの変更について準備を進めた。</p>						<p>収益事業を含む</p>

(5) 震災メモリアル交流施設運営事業

48	せんだい3.11メモリアル交流館運営	通年	3.11メモリアル交流館	52,199	52,199	市受託料 52,099 受講料 100
<p>仙台市震災復興メモリアルの沿岸部拠点として、平成28年2月に地下鉄東西線荒井駅舎内に開館した「せんだい3.11メモリアル交流館」の運営(①来館者の対応 ②事業の実施 ③管理業務の一部)を、仙台市まちづくり政策局からの委託事業として行った。「震災の被害や状況を知り、その経験や教訓を学ぶ場」「東部沿岸地域の記憶を残し、継続的に地域再生への力を形成していく場」「東部沿岸地域への案内所・発着点」としての施設機能を持ち、様々な来館者・市民・住民の集う親しみやすい運営に努めた。上記の施設機能を実現するため、下記の事業を実施した。</p> <p>【企画展(関連企画のツアーやワークショップ等含む)】</p> <p>①ここに根をはる～津波のあとの植物たちとその環境(3/25～7/17)</p> <p>②わたしたちの3.11～せんだい3.11メモリアル交流館+3がつ11にちをわすれないためにセンター[共催:3がつ11にちをわすれないためにセンター](7/30～9/30)</p> <p>③杉の子たちの思い出アルバム～仙台市立中野小学校[共催:仙台市高砂市民センター](10/5～10/26)</p> <p>④こちらへんのごはん～お茶飲み話で聞いた沿岸部のレシピ(11/11～2/12)</p> <p>⑤パネル展「世界がすこやかであるために～東日本大震災と保健活動」(2/17～3/17)</p> <p>⑥ふらり海手バスさんぽ～市バスでおでかけ6ルート(3/26～7/31)</p> <p>【その他事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿岸部の風土・文化体験事業:「夏色ドロップス～あそんで味わう、せんだいの海辺」、「井土浜の竹竿でハゼ釣り」、海辺のふるさとツアー「バスで巡る七郷の歴史」、「冬の遊びと手仕事シリーズ(輪通しづくり)」、「まめげつつあん」等 ・表現・物語で語り継ぐ事業:「海辺のメモリアル帖」の発行vol.17～vol.20、13の詩/ソネット、おらほのアルバムプロジェクト出張イベント、Voice～仙台市東部沿岸地域の伝承と物語(仙台防災未来フォーラム映像参加他) ・市民・団体・組織との協力・連携事業 ・アーカイブ・情報発信事業:震災前の沿岸部の写真収集、ウェブサイト・Facebookの更新、YouTube等 						<p>年間入館者: 48,278人</p> <p>企画展来場者: ①10,815人(4/1～) ②5,227人 ③1,731人 ④6,632人 ⑤2,925人 ⑥678人(～3/31)</p> <p>協力事業:64件 仙台市立小学校見学:36校</p>

(6) 芸術文化受託事業

(単位:千円)

49	市制施行134周年記念コンサート	7/3	日立システムズホール仙台	4,034	4,034	市受託料 4,034
<p>仙台市の市制施行記念式典の一環として開催する仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会。ソリストには第8回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門第5位の橋和美優を迎えて開催した。当年度も、仙台銀行ホール イズミティ21の休館に伴い、日立システムズホール仙台 コンサートホールを会場に実施した。</p>						入場者:592人
50	せんだいメディアテーク震災アーカイブ運営	通年	メディアテーク	15,091	15,091	市受託料 15,091
<p>東日本大震災とその復旧・復興の過程を、市民・専門家・スタッフが協働して記録・発信し、「震災の記録・市民協働アーカイブ」として、整理・保存・利活用する取り組み「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を運営した。具体的には、①写真や映像等で記録し、②資料活用に向け、アクセス可能なメタデータ等を整備し保管した。③収集した資料の一部を、ウェブサイトを通じ配信し、④ライブラリーへの配架、展覧会の開催等、様々な形で利活用した。</p>						<p>③年間ウェブ閲覧数:3,550,023回(日英合計のページ閲覧数)</p> <p>④「星空と路」参加者:9,518人(～3/31)</p>

2. 定款第4条第2号の事業(文化芸術等に関する普及啓発及び情報発信)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
		事業内容				入場者数等見込・備考

(単位:千円)

(1) 仙台文学館普及啓発事業

51	特別展・企画展の関連事業	各展示の開催時期	仙台文学館	71	71	市補助金 71
<p>特別展・企画展の会期中に、展示テーマに関連する様々なイベントを開催し、文学のより深い魅力を伝えた。</p> <p>①特別展「いわさきちひろ展」関連:トークイベント、ワークショップ等を開催した。</p> <p>②「夏休み子ども文学館 えほんのひろば ささめやゆき物語」関連:トークイベントや折り紙教室等を開催した。</p> <p>③企画展「石川裕人 演劇に愛をこめて」関連:リーディングイベントや鼎談を開催した。</p> <p>④企画展「仙台文学館の語り部たち」関連:鼎談や講演会等を開催した。</p>						<p>参加者: ①302人 ②118人 ③392人 ④117人</p>
52	ことばの祭典－短歌・俳句・川柳への誘い	6/3	仙台文学館	380	380	市補助金 380
<p>4年ぶりに当日吟行の形式で開催し、選者の講評も対面で行った。感染対策として、参加希望者は申込制にして、人数制限を行った。</p>						参加者:105人

53	文学講座、講演会等の開催	通年	仙台文学館	2,235	1,940	市補助金 281 受講料 1,659
<p>文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった主体的なニーズに応え、幅広いテーマによる講座を開講した。また講演会を記録できる環境を整え、利用者サービスの向上を図り、事業のアーカイブ化をすすめた。</p> <p>①佐伯一麦エッセイ講座:館長の作家・佐伯一麦によるエッセイの鑑賞と実作指導の連続講座。通年で7回開催した。</p> <p>②佐伯一麦北根ダイアログ(7/9):館長の佐伯一麦と各分野で活躍するゲストとの対談イベント。芥川賞作家佐藤厚志氏を迎えて開催した。</p> <p>③仙台文学館ゼミナール:近代文学を読み解くコース、現代文学を探究するコース、古典に親しむコース、表現をみがくコースに加え、古典芸能を楽しむ部門を設け、各講座をそれぞれ3~5回連続で開催した。</p>						参加者: ①197人 ②183人 ③1,872人
54	教育機関・関係者との連携事業	通年	仙台文学館	0	0	
<p>県内高等学校の文芸部の活動を支援するほか、図書室や国語を担当する教員への研修機会の提供、小中高を通しての調べ学習への協力等を行った。また団体利用向けに、常設展示にからめた内容のワークシートの作成を行った。</p>						対応数:5件
55	学芸員出前講座	通年	—	0	0	
<p>市内を中心に近隣の学校や市民センター等に学芸員が出向き、宮城の文学やこれまでの企画展で取り上げた文学者についての講座を行った。</p>						講座数:8件
56	情報誌の発行	通年	—	974	974	市補助金 974
<p>文学に関する話題を幅広く発信していく情報誌の発行を行った。文学者からの寄稿のほか、仙台の新しい文学を取り上げた企画等内容の充実を図った。</p>						
57	こどもの本の部屋の運営	6/23~	仙台文学館	0	0	
<p>絵本を中心にこどもの本を自由に読んでもらうスペースで、コロナ禍で閉室していたが、3年ぶりに6月23日から開室した。文学館の展示観覧は難しい小さなこどもたちも、保護者とともに楽しめるように、本の入れ替え等も行い活性化を図った。また情報コーナーでの展開も継続した。</p>						
58	文学館友の会の支援	通年	—	0	0	
<p>会の事務局を担当し、文学館との共催事業や読書会、会報の発行等を実施した。</p>						
59	出版物等の販売	通年	—	287	287	市補助金 222 刊行物販売 65
<p>佐伯一麦エッセイ実作鑑賞講座、小池光短歌講座の記録集を制作・販売した。また、平成16年度に発行した文学館選書『天地有情』のほか、企画展関連の物品も館内で継続して販売した。</p>						

3.定款第4条第5号の事業(文化芸術等に関する生涯学習の支援)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
		事業内容				入場者数等見込・備考
(単位:千円)						

(1)せんだいメディアテーク 展覧会等総合事業

60	せんだい・アート・ノード・プロジェクト	通年	メディアテーク	20,137	20,137	市補助金 19,590 助成金 547
<p>優れた現代アートのもつ発見性、吸引力、発信力を取り込みながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合うアートプロジェクトを展開することで、まちの魅力と人々の活気を引き出し、文化都市仙台を発信した。「川俣正/仙台インプログレス」等の事業とこれらに伴う情報発信やアーカイブを行った。</p> <p>①川俣正/仙台インプログレス:仙台市若林区の井土地区に作品《井土浜パーゴラ》を制作した。また、専用ウェブサイト(日英)を整備したほか、映像や模型等の報告展を行った(3/1~5/31)。</p> <p>②定禅寺こどもプロジェクト:アーティスト飯川雄大を招聘・調査を行い、その様子を含めたアートプロジェクトを紹介する書籍を出版社から発行した。</p> <p>③ARCADE:アーティスト笹原晃平氏を招聘し、交換に関するアートプロジェクトのリサーチを仙台フォーラスにて実施した。また、コントを現代美術として扱うアーティストユニットのそんたくズを招聘し、パフォーマンス「○△□の表現論」を実施した(2/24, 25)。</p> <p>④ワケあり雑がみ部:「雑がみ」をテーマとした自由な造形活動を行った。また、寄せられた貴重な包装紙を歴史民俗資料館へ寄贈した。</p> <p>⑤コミュニケーション:公開ミーティング(6/10)の実施、ジャーナルの発行(2月)を行った。</p>						参加者:116,103人 (①③④⑤)

61	展覧会事業「自治とバケツと、さいかちの実-エピソードでたぐる追廻住宅」	通年	メディアテーク	16,775	15,244	市補助金 7,122 入場料 1,122 助成金 7,000
	<p>仙台市追廻地区に新しい公園が誕生し「全国都市緑化フェア」が開催されたことを契機に、その土地の歴史を展覧会形式で振り返った。「追廻」の過去を物語る方法を、多くの人が現在形の出来事として体験できるように展覧会を開発し、アーティストだけでなく、市民団体や専門家などが一体となって地域の消えゆく過去を表現し、次代への継承を図った。参加作家:佐々瞬、伊達伸明</p>					入場者: 4,632人 関連企画参加者: 87人
62	スタジオ情報発信/地域文化アーカイブ	通年	メディアテーク	3,773	3,773	市補助金 1,273 助成金 2,500
	<p>メディアテークのスタジオの機能を活かし、市民間の交流や対話の促進と、市民による地域文化の記録と保存を支援する事業を行なった。 <スタジオ情報発信> 市民の主体的な社会参画を文化面から活性化していくことを目指して、様々な市民文化活動と協働し、「てつがくカフェ」などの対話型の事業を行った。 <地域文化アーカイブ> 市民による自発的な地域文化財のデジタル化により、保存、活用を促す事業を実施した。成果物は、メディアテークに保管し、ライブラリーへの配架やウェブサイト等での発信等により、広く市民に活用される財産とした。また、それらをもとにした、「細倉を記録する寺崎英子の遺したフィルム」や「耳をすまして声をうけつぐ一民話声の図書室の11年」など、小規模な展示を行うことで、仙台市域の様々な文化活動へのより広く深い市民の関心を促した。</p>					参加者: 59,358人
63	発信・施設活用推進	通年	メディアテーク	4,911	4,911	市補助金 4,690 刊行物等販売 71 助成金 150
	<p>各種団体との連携を通じ地域における役割を担うとともに、市民図書館を含めたメディアテークの総合的な情報アクセス機能の活性を促し、常に時勢に応じた魅力あるメディアテークを展開した。 ①バリアフリー・デザイン事業: 目や耳の不自由な方の主体的な情報アクセスを促進するため、手話通訳・要約筆記付きの事業や、託児つき事業を行った。また、手話による読み聞かせ「手ではなすおはなしの会」のほか、「手話による読み聞かせボランティア養成講座2023」や「手話読み聞かせステップアップ講座」を実施した。 ②館長発信事業: 発信力のある鷲田清一館長を軸に、著名なゲストとのトークの開催を通じて、市民のニーズをつかみつつ、メディアテーク全体の新しい姿を示した。併せて、館長の動向を伝える情報発信等も行い、より広い理解へと努めた。 ③地域文化連携・施設活用推進: 各種団体との協働や連携・ネットワークを用い、地域におけるメディアテークの役割を担いつつ、オープンスクエア、ギャラリー、シアター、ライブラリー等館全体の機能を活かしたイベントや展示、上映会等多様な活用事例を示した。さらに、市民図書館とのイベント等の各種連携を通じ、より広い関心を集め、交流を促進する機会をつくった。 また、取り組みが広く市民に届くよう定期的な広報、啓発、情報発信に努めるとともに、次年度事業にまつわる調査を通じ、時勢に敏感に応じた事業企画に取り組んだ。</p>					参加者: ①327人 ②594人 ③23,896人
64	アーティストリサーチ	通年	メディアテーク	495	495	市補助金 495
	令和6年度の展覧会へ向けて、アーティストを招聘し調査を行なった。					
追加	資源循環の杜へ せんだいレポート	通年	メディアテーク	1,100	1,100	市負担金 1,100
	<p>全国的・世界的な課題となっているプラスチックごみ対策等をはじめ、更なる家庭ごみの減量、資源循環に向けた行動する人づくりと、仙台市発の新たな取組創出のための機運醸成に仙台市環境局とともに取り組んだ。この動きを一連の企画を通じて考えるシリーズ「せんだいレポート」として始動し、キックオフイベントを開催した(8/5)ほか、市民の協働者が選書し、市民図書館に特設コーナー「せんだいレポートの本棚」を設置し、啓発につとめた。</p>					入場者: キックオフイベント 653人

4. 定款第4条第1号、第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集、保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
		事業内容				入場者数等見込・備考 (単位:千円)

(1) 仙台市歴史民俗資料館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

①管理運営						
65	仙台市歴史民俗資料館 管理運営	通年	歴史民俗資料館	63,734	63,734	市指定管理料 63,734
	歴史や民俗に関する展示等を行い、学校教育や生涯学習活動を支援する場所として宮城県有形文化財である本館建物の維持管理を行った。					

②展示事業						
66	仙台市歴史民俗資料館 常設展示	通年	歴史民俗資料館	784	569	市指定管理料 569
「仙台地方の農具と農家の暮らし」「仙台 町場の暮らし」「旧歩兵第四連隊コーナー」「体験学習室」に加え、「花見」「仙台の正月」等のミニ展示をロビー及び展示室で展示紹介した。また、震災関連展示を行った。						年間入館者: 23,538人
67	企画展「仙台の祭りと年中行事」	4/29～7/2	歴史民俗資料館	142	142	市指定管理料 142
正月と七夕・盆等の年中行事や神像、御札、竈神等、家々で祀る神仏、また山・鉾・屋台等をともなう都市の祭りと芸能、さらには農耕儀礼における魔除け、虫除け、託宣の行事等、様々な仙台地方の祭りや年中行事の移り変わりについて、地域の人々の祈りと暮らしの視点から考えた。						入館者:3,926人
68	企画展「社交と嗜好品」	7/15～11/12	歴史民俗資料館	718	718	市指定管理料 718
嗜好品とは栄養摂取を目的とせず、香味や刺激を得るための飲食物のことで、個人の嗜好によって消費されるだけでなく、人と人とを結びつける場でも用いられる。本展では嗜好品がもつ社会的意味に注目し、その歴史や種類、消費、文化等について、明治時代の文明開化以降の変化に注目しつつ仙台地方の例を中心に紹介した。						入館者:9,661人
69	特別展「なつかし仙台5～いつか見た街・人・暮らし～」	11/25～4/14	歴史民俗資料館	1,085	1,085	市指定管理料 1,085
仙台地方の街・人・暮らしを中心に明治時代、大正時代、昭和初め、戦後、現代における写真、絵はがき、写真帖や8ミリフィルム等に記録された映像資料を紹介し、街並みや人々の生活の移り変わりを明らかにした。また、写真資料や映像資料の持つ歴史的な意義について考えられる展示構成とし、会期中に関連イベントを実施した。						入館者:7,109(～ 3/31)
③普及啓発事業						
70	講座・体験イベント等	通年	歴史民俗資料館	37	37	市指定管理料 37
<p>①資料館サポーター養成講座(7月～3月):「資料館の魅力について～展示・収集・調査研究・教育普及～」のタイトルで、資料館の事業活動や資料の活用方法を考えながら、民俗文化財や歴史資料の意義をとらえ、参加者の様々な活動につながっていくことを目指した。講座は5回開催し、新たに1名が資料館サポーターに登録した。</p> <p>②子ども講座(7/2、8/7、1/13、3/9/、3/30):おもに小学生を対象に、仙台地方の歴史や民俗をわかりやすく解説するために紙しばいの講座を5回開催した。</p> <p>③ゴールデンウィーク「おもしろ昔たいけん」(4/29～5/7の間の7日間):なつかしい玩具「竹とんぼ、水鉄砲」、こままわし、フラフープ、ホッピング等の遊びや生活用具「石臼ひき」を体験した。</p> <p>④クイズラリー(夏期7/21～8/27、冬期12/16～1/14):クイズやパズル形式での自主見学学習。</p> <p>⑤たんけん資料館「れきみんバックヤード・ツアー」(8/5、8/11、10/9、2/24):展示室、収蔵庫や資料整理室等普段見ることができない資料館のバックヤードを学芸員が解説案内する見学会を開催した。</p> <p>⑥ホームムービーの日(10/21):家庭に埋もれているフィルムを持ち寄り地域の貴重な映像を発掘し、公開した。</p>						参加者等: ①24人登録 ②49人 ③1,988人 ④夏期 150人 冬期 76人 ⑤33人 ⑥48人
71	資料館だより等の発行(その他の事業)	通年	歴史民俗資料館	0	0	
1年間の資料館での事業やイベントなどについてまとめた「資料館だより」をウェブサイトで公開するほか、資料館の講座や体験学習等イベントチラシを作成し学校や関連施設に発送周知した。						
72	学校教育との連携	通年	歴史民俗資料館	0	0	
学校教育との連携促進を目的として実施する事業。主に小学校3年生社会科の学習及び総合的な学習に際して、年間50校を超える市内外の学校が見学を訪れ、石臼ひき等の体験学習を行った。8月には学芸員資格を目指す大学生の単位取得のために必要な実務実習を受け入れ、11月には近隣中学校より職場体験の生徒の受け入れを実施した。						利用学習: 107校4,789人(うち 仙台市内59校3,927 人) 体験活動:のべ484 回 実務実習:6大学13 人 職場体験:3校8人
④資料の収集・保管及び調査研究事業						
73	歴史民俗資料の収集・保管	通年	歴史民俗資料館	1,382	1,382	市指定管理料 1,382
常設展示や企画展示に関連した、仙台地方の歴史と庶民の暮らしの様子を示す資料を収集し、迅速に適切な整理を行い、館内及び館外の収蔵庫に保管した。また、台帳のデジタル化等を進め、より容易な検索を可能にする作業を継続した。						新規収集: 70件 2,221点

74	調査報告書等の発行	通年	歴史民俗資料館	776	776	市指定管理料 776
<p>仙台地域を中心に民俗(民間伝承)、近現代の庶民生活に係る「聞き書き」等の調査を実施し、「調査報告書」第42集にまとめ、刊行した。また館蔵資料の公開、活用のため今年度は絵葉書資料を紹介する「資料集」第21冊を編集・刊行した。</p>						

(2) 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

①管理運営						
75	仙台市富沢遺跡保存館 管理運営	通年	富沢遺跡保存館	96,922	96,922	市指定管理料 96,922
<p>旧石器時代に関連する展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習活動を支援する場として、富沢遺跡保存館を維持管理した。</p>						
②展示事業						
76	仙台市富沢遺跡保存館 常設展示	通年	富沢遺跡保存館	12,779	12,779	市指定管理料 12,779
<p>地下1階の富沢遺跡の発掘調査面の展示、1階での調査結果の展示、及び「氷河期の森」(植生復元)の野外展示を総合的に行った。</p>						
77	第103回企画展「く仙台的遺跡めぐり 長町駅東遺跡」長町に操車場があったころ	4/21~7/17	富沢遺跡保存館	103	103	市指定管理料 103
<p>発掘調査の成果をもとに仙台市内の遺跡を紹介し、身近な地域の歴史や文化財を知るきっかけとする企画展。今回は、長町駅東遺跡の発掘調査成果の中から、近代・近現代の鉄道に関する文化財に着目し、東北最大級の操車場があった長町駅の歴史を振り返った。</p>						
78	第104回企画展「復元画から読み解く氷河期の森」	9/1~11/26	富沢遺跡保存館	140	140	市指定管理料 140
<p>出土資料や写真資料、富沢遺跡復元画等をもとに、旧石器時代の植物や野外展示「氷河期の森」の植物を様々な観点から紹介した。</p>						
79	特別企画展(第105回)「旧石器×ハンター！」	1/16~3/10	富沢遺跡保存館	800	800	市指定管理料800
<p>富沢遺跡で活動した人々を探るため、「捕まえる」「食べる」「加工する」3つのトピックについて石器を中心に展示を行い、旧石器時代の「狩人」たちの道具や暮らしに焦点をあてた。</p>						
80	第106回企画展(令和6年度)ポスター・チラシの印刷	通年	富沢遺跡保存館	133	133	市指定管理料 133
<p>令和6年度開催の第106回企画展のポスター・チラシを作成した。</p>						
③普及啓発事業						
81	講座・体験イベント・ボランティア事業等	通年	富沢遺跡保存館	1,165	1,165	市指定管理料 1,165
<p>①地底の森フェスタ2023(10/8):屋外を会場とし自由参加の形態で開催した。石器を使う、編布服の試着、槍を投げる等の体験活動を行った。ボランティア会とともに企画実施した。 ②考古学講座(1/21、2/17、3/10):一般市民を対象とした講座で、考古学や環境に関するテーマについて多方面から様々な視点で最新の成果を紹介した。特別企画展と連携した形で実施した。 ③たのしい地底の森教室(通年):石器使用等の旧石器時代の生活体験、保存処理、野外展示観察、企画展に関する内容等、施設の魅力を多様な観点から紹介する体験型事業として実施した。 ④利用学習事業(6月~3月):小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習授業を実施した。授業内容は館内外の見学と石器使用等の体験学習であった。実施後、次年度の活動に活かしていけるように、実践内容はウェブサイトで公開した。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から縄文の森広場の同事業と連携して行った。 ⑤市民文化財研究員育成(通年):考古学に対する市民の学習活動を支援するため、公募による2名を対象に、1年間にわたり隔週1回学芸員が支援する活動日を設けた。修了者2名の活動成果をまとめ、公開した。 ⑥ボランティア育成(通年):市民文化財研究員修了生の中の希望者及び公募による申込希望者に、展示解説や行事の際の業務補助等を行うボランティア育成を目的として、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行った。 ⑦地域や大学との連携:市民センター主催事業や町内会活動等の地域イベントへの参画、館イベントの準備・運営を大学生にサポートしてもらう地底の森サポーター事業等を行い、地域や大学との連携を強化する活動を行った。 ⑧富沢ゼミ:(7/9、12/9)富沢遺跡周辺を中心に、仙台市内や宮城県内の遺跡や文化財等を紹介した。</p>						
<p>参加人数: ①170人 ②第1回33人 第2回42人 第3回44人 ③全11回、のべ605人 ④13校826人 ⑤2人修了 ⑥65人登録 (うち新規5人) ⑦学生サポーター8人登録 ⑧第1回77人 第2回37人</p>						

82	運営懇談会	通年	富沢遺跡保存館	0	0	
富沢遺跡保存館の運営に理解と協力を得るために事業を紹介したり、館の運営や事業に生かすことを目的に意見やニーズの聴取を行ったりするための場を設けた。近隣の町内会を対象に、聞き取り調査を行い、学校や地域との連携を進めていくための情報交換を行った。						
④資料の収集・保管及び調査研究事業						
83	資料の収集・保管	通年	富沢遺跡保存館	0	0	
仙台市教育委員会で所蔵している旧石器時代に関する資料等を借用・保管し、適切な管理を行い館の活動に活用するように努めた。						
84	遺構の各種分析調査	通年	富沢遺跡保存館	302	302	市指定管理料 302
保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的とし、地下水位の測定と分析を行った。併せて保存処理検討会を開催した。						
85	野外展示の維持管理と関連調査	通年	富沢遺跡保存館	1,027	1,027	市指定管理料 1,027
野外展示「氷河期の森」を適切に維持管理するための調査等を行った。併せて植生検討会を開催した。また、強風による倒木被害が発生したため、樹木医による高木を対象とした点検なども行った。						
86	研究報告の刊行	通年	富沢遺跡保存館	231	231	市指定管理料231
富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム・縄文の森広場)の職員・ボランティア等による調査研究活動や研修の成果を研究報告としてまとめた。						
87	次年度事業準備・その他	通年	富沢遺跡保存館	371	371	市指定管理料 371
令和6年度の特別企画展に向けた資料調査や出展交渉、及びその他の企画展・体験教室についての資料調査等を行った。また施設長寿命化改修工事及び常設展示リニューアルに向けて、野外展示の整備と活用に関する研究会を開催したほか、展示内容や手法を検討するために職員が調査等を行った。						

(3) 仙台市縄文の森広場管理運営・調査研究・普及啓発事業

①管理運営						
88	仙台市縄文の森広場 管理運営	通年	縄文の森広場	49,976	49,976	市指定管理料 49,976
縄文時代に関連する体験活動や展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習を支援する場として、縄文の森広場を維持管理した。						年間利用者: 19,324人
②展示事業						
89	仙台市縄文の森広場 常設展示	通年	縄文の森広場	15,980	15,980	市指定管理料 15,980
施設内展示及び野外展示を適正な状態に保った。特に、屋外展示の復元住居や植栽は、縄文時代の雰囲気伝える重要な展示品として、適切な維持管理や環境整備を行った。						年間見学者: 6,437人
90	コーナー展示	通年	縄文の森広場	44	44	市指定管理料 44
宮城県内を含む東北地方の縄文時代の遺跡から発見された遺構と遺物を通して、縄文時代の人々の暮らしについて紹介する。 ①「東北の縄文遺跡—仙台の遺跡と米沢の遺跡—」(4/1～6/11) ②「東北の縄文遺跡—山形県村山市羽黒神社西遺跡—」(8/1～10/15) ③「東北の縄文遺跡—北小松遺跡—」(12/1～2/12) ④「東北の縄文遺跡—仙台市上野遺跡—」(3/17～31)						見学者: ①665人 ②851人 ③322人 ④146人
③普及啓発事業						
91	縄文まつり	4/29、10/14	縄文の森広場	474	474	市指定管理料 474
季節ごとに開催する自由参加イベント。春と秋の計2回実施し、その日だけの体験コーナーや音楽演奏等を実施した。また、まつり当日とは別にコンサートを2日間開催した(9/30、2/24)。						参加者: 春 669人 秋 367人 コンサート 162人

92	普及啓発事業	通年	縄文の森広場	475	475	市指定管理料 475
	<p>①団体予約:子ども会、町内会等の各種団体を対象に展示解説や縄文体験を行った。 ②随時体験:来館者を対象とし、様々な縄文体験メニューを提供した。 ③体験講座: (1)週末体験講座(4/16、5/21、7/2、9/10、11/12、1/14、3/3) (2)夏休み子ども考古学教室(7/29、8/19) (3)発掘資料整理体験教室(11/19) ④特別イベント:夏(8/11)・秋(10/7)・冬(12/23)・春(3/23)の長期休業期間にあわせ、誰でも楽しめる体験イベント等を実施した。</p>					参加者: ③ (1)90人 (2)27人 (3)7人 ④214人
93	縄文の森講座	12月～2月	縄文の森広場	20	20	市指定管理料 20
	<p>縄文時代研究について各分野の第一人者による講演会。毎回公募会場30名・オンライン80名を対象とした。 ①「縄文最新研究 最前線①考古学史における松島湾の貝塚・大木岡貝塚」(12/10) ②「縄文最新研究 最前線②大洞貝塚を知る ～考古学史の観点から～」(1/21) ③「縄文最新研究 最前線③仙台発掘最前線!!2023」(2/2)</p>					参加者: ①31人 ②27人 ③34人
94	ボランティア育成事業	通年	縄文の森広場	187	187	市指定管理料 187
	<p>各種体験活動の補助、展示についてのより分かりやすい説明等のための研修事業を、当館でのボランティア活動を新たに希望される方の養成と、既にボランティアとして登録されている方のスキルアップを兼ねて行った。</p>					登録者: 58人
95	学校教育との連携	8月、 10月～12月	縄文の森広場	1	1	市指定管理料 1
	<p>学校教育との連携促進を目的として実施する事業。8月には、市内小・中学校の教職員を対象とした、当館の概要説明や体験活動事業を周知するための施設利用研修を実施した。10月には、学芸員資格取得を目指す大学生が、必要単位を取得するために必要な博物館実務実習の受入れを実施した。10月～12月には、近隣中学校より職場体験の生徒を受け入れた。</p>					博物館実務実習: 6人(3大学) 職場体験: 19人(4校)
96	利用学習事業	通年	縄文の森広場	2,222	2,222	市指定管理料 2,222
	<p>小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習を実施した。当館利用推進を目的として、授業の実践校に交通費の補助を行い、学校側との綿密な連携のもとに、館内外の見学や各種の体験学習を行った。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から本館・地底の森ミュージアムの同事業と連携して行った。</p>					利用者: 1,186人(18校)
97	運営懇談会	通年	縄文の森広場	1	1	市指定管理料 1
	<p>縄文の森広場利用者や地域の方々等に出席いただき開催した。当館の活動を紹介し理解を得ること、利用者の意見やニーズを把握し、当館の運営に役立てること、地域と連携した今後の事業を模索することを目的に意見交換を行った。</p>					
98	野外展示「縄文の森」の多目的活用 「森でみつける『じょうもん』」	通年	縄文の森広場 太白山自然観察の森 太白小学校	5	5	市指定管理料 5
	<p>野外展示「縄文の森」の利活用の幅を広げるために、近隣住民・小学校・地域の団体等と連携を図りながら、専門家の指導を受けて植生環境の充実を図る事業。太白小学校1年生を対象として、生育するクリ等を採用し育てる事業を行ってきた。今年度も、縄文時代に利用された植物を観察する事業を継続して行った。(①10/17、②3/8)</p>					参加者: ①32人 ②27人
④資料の収集・保管及び調査研究事業						
99	体験活動メニューの調査研究	通年	縄文の森広場	291	291	市指定管理料 291
	<p>各種研究成果や実験考古学の成果を生かして、新たな縄文体験メニューやイベントの企画・開発、学校教育との連携事業の推進に取り組んだ。</p>					
100	復元住居の経年変化及び維持管理に関する研究調査	通年	縄文の森広場	0	0	
	<p>公開している復元住居の経年変化を把握し、当時の生活実態に合わせた効果的な維持管理の方法を研究した。復元住居の現状確認と今後の維持管理法の方向性を検討した。また、土葺き竪穴住居の上屋構造に関する調査等を行った。</p>					
101	ボランティアスタッフとの共同調査研究	通年	縄文の森広場	0	0	
	<p>当館が実施している各種事業の内容深化、あるいは新規イベントの開発を目的として、ボランティアスタッフと共同で調査研究活動を実施した。</p>					

102	次年度コーナー展資料調査	通年	縄文の森広場	0	0	
令和6年度に予定している、展示の内容及び展示と連動した体験活動を検討するために、資料調査を実施した。						
103	資料の収集・保管事業	通年	縄文の森広場	0	0	
仙台市で所蔵している山田上ノ台遺跡及び縄文時代に関する資料を借用保管し、適切な管理を行った。また、事業活動の充実を図るため、関連する図書資料等の収集を行った。						

(4) 仙台文学館管理運営・調査研究・普及啓発事業

①管理運営						
104	仙台文学館 管理運営	通年	仙台文学館	178,974	178,974	指定管理料 178,974
文学に関する展示等を実施するとともに、文学活動の場や資料の提供を行い、学校教育活動や生涯学習活動を支援することを目的に、入館者の利便に供する施設の管理運営を行った。						収益事業を含む
②展示事業						
105	仙台文学館 常設展示	通年	仙台文学館	796	0	
明治から現代の仙台・宮城ゆかりの文学をテーマを設けて紹介した。資料収集の状況に応じて展示替えを行い新しい情報の提供を行った。また、常設展示室の基本的な解説について、外国語(英語・中国語・韓国語)の解説シートを制作した。						
106	特別展「ピエゾグラフでたどる いわさきちひろの世界」	4/29～6/11	仙台文学館	4,223	4,223	市指定管理料 4,223
やわらかな色彩と筆致で、子どものすがたを描きつづけた画家・いわさきちひろ。あたたかさに満ちた作品の数々は、没後49年を経た現在も多くの人々に愛されている。本展では、ちひろ美術館所蔵のピエゾグラフ(精密複製画)を中心に、その絵の魅力や魅力を伝え、ひとりの人間としてのいわさきちひろにも着目し、ちひろが残したことばや、身のまわりの品々等も展示し、その生き方と人物像を紹介した。						観覧者:4,247人
107	夏休み子ども文学館えほんのひろば「ささめやゆき物語」	7/15～9/10	仙台文学館	2,669	2,669	市指定管理料 2,669
絵本や児童書の絵から版画、油絵など幅広く手掛ける、絵本作家で版画家のささめやゆきの展示を開催した。展示では『ぼんびぼんぼん』『あるひあるとき』等の原画や、版画作品等を紹介した。会期中はコロナ禍で中止をしていた、お話を再開した。						観覧者:6,997人
108	企画展「石川裕人 演劇に愛をこめて」	10/7～12/17	仙台文学館	2,072	2,072	市指定管理料 2,072
「劇団TheatreGroup“OCT/PASS”」を主宰し、東北の演劇界を牽引した、劇作家で演出家・石川裕人を紹介する展示を開催した。亡くなるまでに106本もの戯曲を発表し、晩翠わかば賞・晩翠あおば賞の選考委員も務め、子どもたちの詩の表現に関心を持ち続けた人物で、本展では多くの演劇人に慕われた石川の59年の軌跡を紹介し、演劇ユニット石川組の協力のもと、石川作品のリーディングイベント等も行った。今後の基礎資料となる、パンフレットも制作した。						観覧者:1,553人
109	企画展「仙台文学館の語り部たち 資料でたどる文学の記憶」	1/20～3/17	仙台文学館	1,565	1,565	市指定管理料 1,565
宮城・仙台で展開した文学的な出来事を、年代順に紹介した。宮城・仙台で出版された180冊を超える文芸誌や、そこに集った文学者の書簡、宮城・仙台が舞台となった作品等、当館資料を中心にしながら、当時の写真や地図等も用いて展示した。						観覧者:880人
110	新春ロビー展「100万人の年賀状展」	1/10～2/12	仙台文学館	192	192	市指定管理料 192
文学館あての年賀状を広く一般から募集し、ゆかりの文学者から寄せられた年賀状等と一緒に展示紹介した。						観覧者:2,247人
111	次年度事業準備・その他	通年	仙台文学館	1,514	1,514	市指定管理料 1,514
令和6年春の特別展「石川善助をたずねて」の準備を進めた。						
③資料の収集・保管及び調査研究事業						
112	資料の収集・保管	通年	仙台文学館	2,971	2,971	市指定管理料 2,971
宮城・仙台ゆかりの文学者・文学作品に関する資料の収集を行った。収集した資料の適切な整理とコンピュータを活用した資料管理をし、資料の修復や複製の制作を行った。						新規収集:1,242点

5.定款第4条第6号の事業(文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
	事業内容					備考

(単位:千円)

(1) 仙台市青年文化センター管理運営事業

113	仙台市青年文化センター管理運営	通年	日立システムズホール仙台	354,148	354,148	市指定管理料 354,148
<p>令和4年度から5年間の指定管理を受け、その2年目となる当年度は次のとおり施設運営を行った。</p> <p>(1)利用者が安心・安全に利用できるよう、保守点検等をはじめとする各種点検業務をより強化するとともに、火災や震災等の災害に対してより実践的に対処できる防災体制について、不断の見直しを行いながら取り組んだ。</p> <p>(2)利用者との積極的なコミュニケーションを図り、利用に関する的確なアドバイスを行い利用者の増加を目指した。</p> <p>(3)施設利用や芸術文化に関する情報を広く提供するなど広報を強化した。</p> <p>(4)市民の文化活動の拠点施設及び劇場法にうたう劇場・音楽堂としての役割を担うことを認識し、地域との連携や、地域資源を有効に活用するなど工夫しながら各種事業を展開し、より市民に親しまれる施設づくりを進めた。</p> <p>(5)利用者アンケートの実施や意見箱返答コーナーの設置など、意見集約を積極的に行いながら業務改善に努めた。</p> <p>(6)地下2階駐車場のインターホンをサポートが必要な利用者が使いやすい場所に移設する等、障害のある利用者に対する「合理的配慮」の提供への取り組みを行い、障害を理由とする差別の解消の推進に努めた。</p> <p>(7)大規模改修で未改修の設備があり、それらにより館運営に支障が生じる懸念もあるなか、施設利用者に不都合や不利益が生じることのないよう施設設置者と連携し適切な施設維持管理に努めるとともに、次期大規模改修に備え、これまで培った管理運営の知識と経験を生かし、施設設置者への働きかけを行った。</p> <p>(8)楽都仙台や劇都仙台の拠点施設として事業の運営サポートほか、「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」の趣旨をふまえた施設運営を行った。</p> <p>(9)世界的なエネルギー不足に配慮した、節電などの省エネに関する取り組みを行った。</p>						<p>年間利用者: 346,855人</p> <p>収益事業を含む</p>

(2) 仙台市泉文化創造センター管理運営事業

114	仙台市泉文化創造センター管理運営	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	112,040	112,040	市指定管理料 112,040
<p>「仙台市市民文化事業団・東北共立・石井ビル管理グループ」として令和2年度から5年間の指定管理を受け、その4年目となる当年度は次のとおりの業務を行った。</p> <p>(1)令和4年度より2年間にわたって全館を休館して行った大規模改修に関しては、これまでの施設管理運営で培ってきた知識と経験を活かしながら、設置者、施工業者等との連携を強め改修工事がよりよい内容となるよう努めた。また、工事完了、引渡後からは再開館後の施設貸出業務をスムーズに行えるよう準備した。</p> <p>(2)令和6年4月以降の施設利用にかかる予約受付、引渡後は施設の見学等の対応もあわせて行った。また、施設改修部分だけでなく施設運営面の改善も行うことで、休館前の稼働率を維持できるように努めた。</p> <p>(3)地域の音楽振興を目的としたアウトリーチ公演、近隣小学校児童を対象としたプレコンサート等、休館中も市民に芸術鑑賞の機会を提供できるよう努めたほか、ボランティアによるピアノ弾き込みを再開しピアノのコンディションを整える等、再開館に向けた準備を行った。</p>						

(3) せんだいメディアテーク管理運営事業

115	せんだいメディアテーク 管理運営	通年	メディアテーク	604,214	604,214	市指定管理料 604,214
<p>5年間の指定管理2年目となる当年度は、令和4年度に実施した照明・空調改修工事を経て全館通常開館となり、市民文化のシンボルでもある定禅寺通に面した立地と施設の特性を活かし、人々が様々なメディアを通じて自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場として、また美術や映像文化等を中心とする芸術文化活動の拠点として、施設・設備の適切な管理運営に努めた。</p> <p>メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援を行った。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行ったほか、展示や上映のための施設の提供を行った。事業としては協働事業を引き続き発展させ、市民参加型事業を積極的に進めた。また、博物館連携ネットワーク「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」事務局業務を仙台市教育委員会と共同で担うとともに、学校との連携を図り次世代の育成に取り組んだ。</p> <p>今後の大規模修繕とその後を見据え、計画的な保全を図るとともに、改修に向けて関係各所との情報共有等を行った。</p>						<p>年間利用者: 268,581人</p> <p>収益事業を含む</p>

116	せんだいメディアテーク ライブラリー運営・美術映像文化推進事業	通年	メディアテーク	8,579	8,579	市指定管理料 8,579
<p>映像音響ライブラリー、視聴覚障害者情報ライブラリーにおける映像音響資料及びデジタル資料等の収集・整理・提供事業を推進し、市民の情報検索及び閲覧の環境を提供した。また、せんだいメディアテークの事業、及び「3がつ11にちをわすれないためにセンター」において集められた震災関連の映像等を含む様々な協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、「smtコレクション」として公開し、映像音響ライブラリーを通じて提供した。また、映像文化推進に向けた上映会「映像の仙台史」を実施した。</p>						<p>配架数:433点 (うち、AV396点、パリアフリー37点) smtコレクションDVD:82点 上映会入場者:462人</p>

1. 基本方針 1 資料の収集と活用

歴史や伝統、多様な文化芸術に関する資料収集・調査研究とその成果の活用により、市民の暮らしに息づく文化の保存・伝承および総合的な文化の振興を図り、市民の主体的な学びの支援とまちの魅力向上に活かします。

[1] 資料の収集・保管及び調査研究

[2] 調査成果に係る情報発信と成果を活用した事業の展開

令和5(2023)年度 事業の概要

仙台の文化・歴史を形づくる資料の収集・保管に努めるとともに、施設ごとに特色ある展示事業を実施しました。また、感染症予防対策でこれまで控えてきた体験プログラムを徐々に増やしていく等、様々な方向から興味関心を持っていただける魅力ある事業づくりに努めました。

さらに、各施設における調査研究の成果を、展示だけではなく、ウェブサイトや講座等を通じて積極的に発信しました。

[1] 資料の収集・保管及び調査研究

ア 仙台市歴史民俗資料館[2, 158] (市指定管理料/No. 73-74)

イ 仙台市富沢遺跡保存館[1, 931] (市指定管理料/No. 83-87)

ウ 仙台市縄文の森広場[2, 038] (市指定管理料・自主財源・助成金/No. 18, 99-103)

エ 仙台文学館[2, 971] (市指定管理料/No. 112)

オ せんだいメディアテーク[632, 941] (市指定管理料・市補助金・市受託料・助成金・自主財源/No. 19, 50, 62, 115-116)

[2] 調査成果に係る情報発信と成果を活用した事業の展開

ア 仙台市歴史民俗資料館 常設・企画展等[2, 729] (市指定管理料・自主財源/No. 66-69, 71)

イ 仙台市富沢遺跡保存館 常設・企画展等[13, 955] (市指定管理料/No. 76-80)

ウ 仙台市縄文の森広場 常設・企画展等[16, 024] (市指定管理料/No. 89-90)

エ 仙台文学館 常設・企画展等[14, 005] (市指定管理料・市補助金・自主財源/No. 56, 105-111)

オ せんだいメディアテーク 企画展等[33, 150] (市補助金・市受託料・助成金・入場料・自主財源/No. 19, 50, 61)

主な展示事業

No. 69 仙台市歴史民俗資料館 特別展「なつかし仙台5～いつか見た街・人・暮らし～」(11月25日～4月14日)

仙台地方の街・人・暮らしを中心に、明治時代、大正時代、昭和初め、戦後、現代における写真、絵はがき、写真帖や8ミリフィルム等に記録された映像資料を紹介した。(観覧者：7, 109人 [3月31日時点])

No. 79 地底の森ミュージアム 特別企画展「旧石器×ハンター！」(1月16日～3月10日)

「捕まえる」「食べる」「加工する」の3つのトピックについて石器を中心に展示を行い、旧石器時代の「狩人」たちの道具や暮らしを紹介した。(観覧者：4, 108人)

No. 108 仙台文学館 企画展「石川裕人 演劇に愛をこめて」(10月7日～12月17日)

劇団TheatreGroup“OCT/PASS”を主宰し、東北の演劇界を牽引した劇作家で演出家・石川裕人の回顧展を開催した。開催期間中には演劇ユニット石川組の協力のもと、リーディングイベント等も行い、多角的に石川の業績を紹介した。(観覧者：1, 553人)

No. 61 せんだいメディアテーク 「自治とバケツと、さいかちの実ーエピソードでたぐる追廻住宅ー」(11月3日～12月24日)

仙台市追廻地区に新しい公園が誕生し、「全国都市緑化フェア」が開催されたことを契機に、アーティストと市民団体や専門家などが一体となってその土地の歴史や、消えゆくとする過去を展覧会として表現し、次代への継承を図った。(観覧者：4, 632人)

調査成果の情報発信

No. 18 縄文の森広場「国際ミニシンポジウム パブリック・アーケオロジーって何？」

国際交流の成果の一部として、韓国から専門家を招へいし、ワークショップの実施や文化財の保存や活用に関するシンポジウムを開催した。（参加者：41人）

2. 基本方針2 市民の文化活動への支援

市民が行う自主的な学びと安全で安心な活動の場を提供し、さまざまな文化活動の支援や情報発信に努めることで、多彩な学びの機会にあふれる環境やライフステージに関わらず誰もが心豊かな市民生活を送り、地域が活性化することをめざします。

[1] 文化施設の管理運営・魅力向上

[2] 市民活動や学びの場の提供と支援・助成・協力

[3] 鑑賞機会の提供

令和5(2023)年度 事業の概要

大規模改修工事2年目となる泉文化創造センターでは、昨年度に引き続き設置者・施工業者と連携し、工事が適切に行われるよう努めました。このほか、令和4年度に改修工事・再整備工事を行ったせんだいメディアテーク、せんだい演劇工房10-BOXをはじめ、各施設についても安全で快適な施設の維持管理・運営に努めました。

また、市民の文化活動を支援するための助成事業や、施設の貸出等を通じて、多角的な文化活動への支援を行いました。

鑑賞事業では、「宝塚歌劇公演」等の演劇・音楽公演事業を実施したほか、ミュージアム施設でも鑑賞機会を創出するための様々な事業を展開しました。

[1] 文化施設の管理運営・魅力向上

- ア 仙台市青年文化センター 管理運営・活性化事業[355, 289]（市指定管理料・自主財源等/No. 9, 113）
- イ 仙台市泉文化創造センター 管理運営・活性化事業[112, 987]（市指定管理料・自主財源・協賛金/No. 10, 114）
- ウ 仙台市歴史民俗資料館 管理運営[63, 734]（市指定管理料/No. 65）
- エ 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営[96, 922]（市指定管理料/No. 75）
- オ 仙台市縄文の森広場 管理運営[49, 976]（市指定管理料/No. 88）
- カ 仙台文学館 管理運営[178, 974]（市指定管理料/No. 57, 104）
- キ せんだい演劇工房10-BOX・能-BOX 管理運営[28, 666]（市補助金・使用料等/No. 47）*方針4にも該当
- ク せんだいメディアテーク 管理運営・ホスピタリティ向上事業[604, 214]（市指定管理料/No. 20, 115）
- ケ せんだい3.11メモリアル交流館 運営[52, 199]（市受託料・受講料/No. 48）*方針5にも該当

[2] 市民活動や学びの場の提供と支援・助成・協力

- ア 仙台市青年文化センター 管理運営[354, 148]（指定管理料/No. 113）
- イ 仙台市泉文化創造センター 管理運営[112, 040]（市指定管理料/No. 114）
- ウ せんだい演劇工房10-BOX・能-BOX 管理運営[28, 666]（市補助金・使用料等/No. 47）*方針4にも該当
- エ せんだいメディアテーク 管理運営・生涯学習支援事業[621, 477]（市指定管理料・市補助金・助成金/No. 62, 63, 115, 116）
- オ 支援・助成・協力事業[56, 218]（市補助金・自主財源/No. 1-3）

[3] 鑑賞機会の提供

- ア 宝塚歌劇雪組全国ツアー宮城公演[30, 293]（自主財源・入場料・協賛金等/No. 4）
- イ 劇場・音楽堂等機能強化推進事業<公演事業>[56, 186]（市負担金・助成金・入場料・自主財源/No. 8）
*方針4にも該当
- ウ 仙台市青年文化センター 活性化事業<パフォーマンスフェスティバル>[1, 141]（自主財源・コピー料収入/No. 9）*方針4にも該当
- エ 仙台市泉文化創造センター 活性化事業<泉エリアを中心としたアウトリーチ>[947]（自主財源・協賛金/No. 10）*方針4にも該当
- オ せんだい演劇工房10-BOX 鑑賞プログラム[3, 278]（市補助金・自主財源/No. 24）
- カ 仙台市歴史民俗資料館 活性化事業<れきみん秋祭り等>[3, 448]（自主財源・助成金等/No. 11-12）

- キ 仙台市富沢遺跡保存館 活性化事業<ミュージアム・シアター“狩人登場!”>[1,587] (自主財源/No.15)
- ク 仙台市縄文の森広場 普及啓発事業<縄文まつり>[474] (市指定管理料/No.91)
- ケ 仙台文学館 普及啓発事業[451] (市補助金/No.51-52)
- コ 共催事業[1,078] (自主財源/No.7)
- サ 広報事業[4,162] (市補助金/No.36)
- シ 「市民文化事業団友の会」事業[2,357] (自主財源・会費収入/No.37)

文化施設の改修

No.114 仙台市泉文化創造センター

長寿命化のための大規模改修 (令和4年4月～令和6年3月)

主な鑑賞事業

No.8 名曲のちから「オーケストラ・スタンダード」vol.30 ～三大交響曲の輝き～

仙台フィルハーモニー管弦楽団創立50周年となる当年度から仙台フィル指揮者に就任した太田弦の指揮で、スタンダードな交響曲を解説付きで演奏した。(入場者:769人)

No.8 ライブ文学館vol.20「ブラザー軒」の詩人 菅原克己の詩を歌う

亘理町出身の詩人、故・菅原克己をテーマに、佐久間順平による歌と音楽、在仙ピアニストの演奏と俳優による詩の朗読ほかで構成し、詩の魅力を紹介した。(入場者:188人)

No.10 仙台市泉文化創造センター 泉エリアを中心としたアウトリーチ

施設休館のため芸術鑑賞機会が減少する泉エリアの住民に向けて、これまで大ホールホワイエを会場に開催してきた企画を同エリアの小学校、市民センター等で実施した。出演は泉区出身のチェロ奏者吉岡知広、ピアニストの榎本未来、八巻梓。(入場者:552人)

3. 基本方針3 さまざまな人材の育成

文化活動に関わる人材のすそ野を広げ、子どもたちをはじめとする次世代や新たな担い手を育てるとともに、地域の歴史や伝統、民俗芸能の継承を支援し、地域への誇りや愛着を深め、鑑賞者の育成にも務めるなど、文化に関わる市民力の向上をめざします。

[1] 講座・ワークショップの開催

[2] ボランティア、サポーターの活動機会の充実

令和5(2023)年度 事業の概要

舞台芸術・音楽分野の人材育成プログラム等による創造的な体験の機会提供を通じ、文化芸術に関わる人材のすそ野を広げるとともに、次代の文化の担い手の育成を図りました。

仙台国際音楽コンクールや仙台クラシックフェスティバル等の大規模な事業運営や、ミュージアム施設の運営にあたっては、過去3年間にわたって感染症予防対策で制限せざるを得なかったボランティア活動を徐々に従来規模に戻していきながら、市民が生き生きと活動できる場の再創出に努めました。

[1] 講座・ワークショップの開催

ア 劇場・音楽堂等機能強化推進事業<人材養成事業>[56,186] (市負担金・助成金・受講料・自主財源等/No.8) *方針4にも該当

イ せんだい演劇工房10-BOX 人材養成事業[2,208] (市補助金・助成金・受講料等/No.23,26) *方針4にも該当

ウ 能-BOX 古典芸能人材養成事業[899] (市補助金・受講料/No.28) *方針4にも該当

エ 芸術家派遣事業 (実行委員会参画/No.33)

オ 東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト[277] (自主財源/No.34) *方針4にも該当

カ 仙台ジュニアオーケストラ運営事業[22,544] (市負担金・受講料等/No.46) *方針4にも該当

キ 仙台文学館 文学講座・講演会・学芸員出前講座等[2,235] (市補助金・受講料等/No.53-55)

ク 仙台市歴史民俗資料館 講座・体験イベント等[37] (市指定管理料/No.70,72)

ケ 仙台市富沢遺跡保存館 講座・体験イベント等[1,661] (市指定管理料・自主財源/No.13,16,81)

コ 仙台市縄文の森広場 講座・体験イベント等[2,718] (市指定管理料/No.92,93,95,96)

[2] ボランティア、サポーターの活動機会の充実

- ア 仙台国際音楽コンクール・仙台クラシックフェスティバル／ボランティア事業
[1, 378] (市負担金等／No. 43) *方針4にも該当
- イ 仙台文学館 友の会支援事業 (No. 58)
- ウ 仙台市歴史民俗資料館 サポーター養成事業[37] (市指定管理料／No. 70)
- エ 仙台市富沢遺跡保存館 ボランティア事業[1, 165] (市指定管理料／No. 81)
- オ 仙台市縄文の森広場 ボランティア事業[187] (市指定管理料／No. 94, 101)

主な人材育成事業

No. 8 演劇による震災伝承事業「Voice～仙台市東部沿岸地域の伝承と物語～」

仙台の東部沿岸部地域の歴史に基づく物語や伝承を、公募による調査研究チームが収集、演劇作品として上演した。(受講者：13人、入場者：190人)

No. 34 東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト

仙台及び東北地域における音楽教育の振興のため、東京藝術大学、仙台市との共催で実施。当年度はピアノ部門、ヴァイオリン部門、木管+ホルン部門の計3部門を実施し、日本最高レベルの音楽教育に触れる機会を提供した。(受講者：20人、聴講者：157人)

主なボランティア事業

No. 5 仙台クラシックフェスティバル2023

会場運営、カメラマン、アナウンス、会場花装飾等、多様な場面で市民がボランティアとして活躍する機会を提供した。

4. 基本方針4 [楽都][劇都]の成長促進

たくさんの市民が集う劇場等を文化の継承・創造・発信の場として活用することで、「楽都」や「劇都」として、市民が参加し、育んできた文化をさらに成長させ、仙台の魅力として国内外に発信していきます。

- ① 劇場・音楽堂の活性化
- ② 音楽の振興と創造・発信型事業の推進
- ③ 舞台芸術の振興と創造・発信型事業の推進

令和5(2023)年度 事業の概要

令和7年度開催予定の第9回仙台国際音楽コンクールの開催準備を着実に進めるとともに、コンクール関連事業の実施や、17回目となる仙台クラシックフェスティバルの開催を通じて「楽都仙台」を積極的に国内外に発信しました。

また、再整備工事により延期となっていたせんだい演劇工房10-BOX開館20周年記念事業の実施をはじめ、仙台短編戯曲賞の第8回大賞作品のリーディング公演、県内外の劇団を招聘しての公演、アウトリーチ事業等、多彩なプログラムを通じて「劇都仙台」の振興を図りました。

[1] 劇場・音楽堂の活性化

- ア 劇場・音楽堂等機能強化推進事業[56, 186] (市負担金・助成金・入場料・自主財源／No. 8) *方針2, 3, 5にも該当
- イ 仙台市泉文化創造センター 活性化事業<リニューアル開館に向けたプレ企画>[947] (自主財源・協賛金／No. 10)

[2] 音楽の振興と創造・発信型事業の推進

- ア 仙台国際音楽コンクール事業[43, 717] (市負担金・助成金・入場料・自主財源等／No. 39-45)
- イ 仙台クラシックフェスティバル[70, 561] (市負担金・協賛金・入場料・自主財源等／No. 5)
- ウ 仙台ジュニアオーケストラ運営事業[22, 544] (市負担金・受講料等／No. 46) *方針3にも該当
- エ 市制施行134周年記念コンサート[4, 034] (市受託料／No. 49)
- オ 地下鉄駅コンサート[1, 083] (市負担金／No. 31)

[3] 舞台芸術の振興と創造・発信型事業の推進

- ア せんだい演劇工房10-BOX開館20周年記念事業[5, 205] (自主財源・入場料/No. 25)
 イ 仙臺能[3, 970] (市負担金・入場料/No. 22)
 ウ 舞台芸術人材育成・地域連携事業[2, 208] (市補助金・助成金・自主財源・受講料等/No. 23, 26, 29)
 エ せんだい演劇工房10-BOX 鑑賞プログラム[3, 278] (市補助金・自主財源/No. 24) *方針2にも該当
 オ せんだい短編戯曲賞[1, 474] (市補助金/No. 27)
 カ 能-BOX事業[899] (市補助金・受講料/No. 28) *方針3にも該当

主な劇場・音楽堂の活性化事業

No. 8 シアターホール創造拠点事業「Atoa. 創作公演」

仙台を拠点に活動する和太鼓グループ「Atoa.」をはじめ、同じく仙台にゆかりのある他ジャンルの実演家も招聘し、分野を超えたコラボレーションを通じた作品を創作・上演した。(入場者:317人)

主な楽都仙台事業

長きにわたり仙台国際音楽コンクールを牽引し、2022年に逝去された野島稔氏の功績を称え、以下の公演を開催した。

- ・No. 44 第8回仙台国際音楽コンクール優勝者副賞コンサート「中野りな&ルウオ・ジャチン デュオ・リサイタル」(入場者:453人)
- ・No. 45 仙台国際音楽コンクール関連事業「もっと教えて野平一郎先生～鍵盤楽器の歴史と魅力～」(入場者:344人)

主な劇都仙台事業

No. 25 せんだい演劇工房10-BOX 開館20周年記念事業

施設リニューアルと20周年の記念事業として、以下の2つの公演を実施した。

- ・せんだい演劇工房10-BOX20+1周年事業THE DRAFT (入場者:136人)
- ・兵庫県立ピッコロ劇団お出かけステージ「タラレバ幽霊タカラの山」(入場者:77人)

5. 基本方針5 地域文化資源の活用

多様な分野や担い手との連携や交流を進め、地域や文化資源の新たな魅力発掘に努めるとともに、他者への理解を促進し、地域で育まれてきた文化の土壌を発展させることで、文化の力を地域の活性化や課題解決に活かします。

- [1] 地域共生社会を見据えた事業
- [2] 震災・復興に文化を通して向き合う事業
- [3] 地域・社会の課題を見据えた文化事業
- [4] 新たな地域文化創造にむけた事業

令和5(2023)年度 事業の概要

各施設が地域コミュニティと連携し、魅力あるまちづくりに向けた取り組みに積極的に参画することで、地域に根差した施設運営を目指しました。

加えて、震災・復興に文化を通して向き合う事業に取り組むとともに、地域の社会課題に向き合う文化芸術活動を支援する助成事業や、せんだい・アート・ノード・プロジェクト等における地域の活動団体やアーティストとの協働を通じて、地域資源を生かした新たな文化創造にも取り組みました。

[1] 地域共生社会を見据えた事業

- ア 仙台市青年文化センター 地域連携事業[1, 141] (自主財源/No. 9)
- イ 仙台市富沢遺跡保存館 地域交流促進事業[212] (自主財源/No. 14)
- ウ 仙台市富沢遺跡保存館 学校・地域連携促進事業[80] (自主財源/No. 17)

- エ 仙台市富沢遺跡保存館・仙台市縄文の森広場 利用者や地域との運営懇談会[1]（市指定管理料／No. 82, 97）
 オ 仙台市縄文の森広場 野外展示「縄文の森」の多目的活用[5]（市指定管理料／No. 98）
 カ せんだいメディアテーク smtホスピタリティ向上事業（No. 20） *方針2にも該当

[2] 震災・復興に文化を通して向き合う事業

- ア せんだい3.11メモリアル交流館運営・各種事業[52, 199]（市受託料・受講料／No. 48）
 イ せんだいメディアテーク震災アーカイブ運営事業[15, 091]（市受託料／No. 50） *方針1, 2にも該当

[3] 地域・社会の課題を見据えた文化事業

- ア 持続可能な未来へ向けた文化芸術の環境形成助成事業[35, 334]（市補助金／No. 1） *方針2にも該当
 イ もりのみやこのふれあいコンサート[3, 616]（市補助金／No. 6）
 ウ 劇場・音楽堂等機能強化推進事業<普及啓発事業>[56, 186]（市負担金・助成金・受講料等・自主財源／No. 8） *方針4にも該当
 エ せんだいメディアテーク 発信・施設活用推進<バリアフリー・デザイン事業>[4, 911]（市補助金・助成金等／No. 63）

[4] 新たな地域文化創造にむけた事業

- ア せんだい・アート・ノード・プロジェクト[20, 137]（市補助金・助成金／No. 60）
 イ せんだいメディアテーク管理運営<仙台・宮城ミュージアムアライアンス事務局業務>[604, 214]（市指定管理料／No. 115）

No. 48 「せんだい3.11メモリアル交流館運営・各種事業」

仙台市沿岸部に伝承されてきた風土に根ざした料理のレシピを、料理や食べ物にまつわる思い出とともに紹介する企画展「ここらへんのごはん～お茶飲み話で聞いた沿岸部のレシピ」をはじめとする年6回の企画展のほか、地域の活動団体と連携して企画・実施する子ども向け体験プログラム「夏色ドロップス」等の企画を実施した。また、仙台市立小学校の見学受入れや、月命日の延長開館など、東部沿岸地域への発着点及び地域コミュニティの拠点として親しまれる運営に努めた。（年間来場者：48, 278人）

追加 せんだいメディアテーク「資源循環の杜へ せんだいレポート」

全国的・世界的な課題となっているプラスチックごみ対策等をはじめ、更なる家庭ごみの減量、資源循環に向けた行動する人づくりと、仙台市発の新たな取組創出のための機運醸成に仙台市環境局とともに取り組んだ。

6. 法人の基盤強化と職員の能力開発

- ① 運営基盤の安定化
- ② 組織の強化
- ③ 安全・安心の確保
- ④ 情報発信の強化
- ⑤ 職員の専門性と能力の開発
- ⑥ 市民協働の推進

令和5(2023)年度の取り組み

- ① クラウドファンディングも含めた新たな寄附制度の仕組みの検討と導入
- ② チャレンジする組織風土づくりのため、具体的な取り組みの検討と着手
- ③ 災害発生時を想定した実地訓練の拡大
- ④ 事業ターゲットに合わせた多様な手段を用いた広報展開
- ⑤ 研修メニューの充実と回数増、職員の能力開発への支援
- ⑥ 既存の市民協働事業の活動拡大、新たなネットワークの構築

「市民文化事業団友の会」制度の見直し

令和6年度4月開始の制度リニューアルに向けて、これまでの会員制度を見直し、「ネット会員」「レター会員」の2種類の会員区分を設けるとともに、インターネットを利用した会員サービスの提供開始等の準備を進めた。

会計事務の一部電子化

インボイス制度の開始及び電子帳簿保存法改正への対応にあわせてシステムを新たに導入し、決裁事務を一部電子化する等の業務効率化を行った。